

2023年度 決算説明資料

2024年5月9日
株式会社 神戸製鋼所
証券コード 5406

KOBELCO

1. 業績総括
2. 2023年度 業績
3. 2024年度 業績見通し
4. 参考情報

1. 業績総括

2023年度業績

(対前期)

- 経常利益**は、鉄鋼・アルミ板での販売数量の減少や在庫評価影響の悪化、建設機械での補償金収入の剥落などがあったものの、鉄鋼メタルスプレッドや鉄鋼以外の販売・調達価格の改善、電力の神戸発電所4号機の稼働や燃料費調整の時期ずれなどの一過性の増益影響もあり、**前期比540億円増益の1,609億円 (ROIC6.7%)**。
- 当期において、収益性が低下しているアルミ系事業で△420億円の損失処理を実施。(P10～P12参照)
 <アルミ板：経常損益△146億円／特別損益△92億円、アルミ素形材：特別損益△180億円>
親会社株主に帰属する当期純利益は、固定資産の譲渡益もあり、前期比369億円増益の1,095億円。

(対前回)

- 経常利益**は、アルミ板事業に関する損失を計上したものの、鉄鋼メタルスプレッドの改善や電力での一過性の増益影響拡大などにより、**前回見通し(1,500億円)比109億円の増益。**

2024年度業績見通し (対2023年度)

- 事業環境は、自動車生産は2023年度並みで推移、IT・半導体は回復基調へ転換、建設・土木は下期から緩やかな回復と想定。また、主原料以外の**労務費・物流費などの大幅なコストアップ**を見込む。
- 経常利益**は、鉄鋼での**厚板工場・仕上圧延機の更新完了**及びアルミ板・素形材での**IT・半導体向けを中心とした販売数量の増加**、建設機械での**エンジン認証問題の段階的な解消**などの増益要因があるものの、電力における一過性影響の剥落、固定費を中心としたコスト増加等の減益要因により、**1,500億円程度 (ROIC6.5%程度)**を見通す。
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、2023年度比増益の1,200億円程度の見通し。**

(単位：億円)

	2022年度 実績	2023年度 見通し(前回)	2023年度 実績	2024年度 見通し	2023年度		2024年度
	①	②	③	④	対前年度 ③-①	対前回 ③-②	対前年度 ④-③
売上高	24,725	25,600	25,431	26,600	+706	△169	+1,169
営業損益	863	1,650	1,866	1,650	+1,002	+216	△216
鉄鋼アルミ	419	255	※2 161	400	△258	△94	+239
素形材	9	20	32	60	+22	+12	+28
溶接	28	40	49	45	+20	+9	△4
機械 ※1	157	275	296	285	+138	+21	△11
エンジニアリング	41	80	124	110	+82	+44	△14
建設機械	123	75	91	140	△32	+16	+49
電力	245	800	857	465	+612	+57	△392
その他 ※1	48	40	48	45	△0	+8	△3
調整額	△7	△85	△51	△50	△44	+34	+1
経常損益	1,068	1,500	1,609	1,500	+540	+109	△109
在庫評価影響を除く	828	1,445	1,564	1,385	+736	+119	△179
特別損益	△87	278	※2 ※3 13	-	+101	△265	△13
親会社株主に帰属する 当期純損益	725	1,200	1,095	1,200	+369	△105	+105

※1 (株)コベルコ科研について、2023年度より「その他セグメント」から「機械セグメント」に変更
これに伴い、対比元の2022年度実績の業績数値を再集計

※2 アルミ系事業の損失を計上（詳細はP10～12参照）

※3 子会社における固定資産の譲渡益を計上（8月4日プレスリリース資料参照）

（ ）は需要変動の影響を受けるユニット

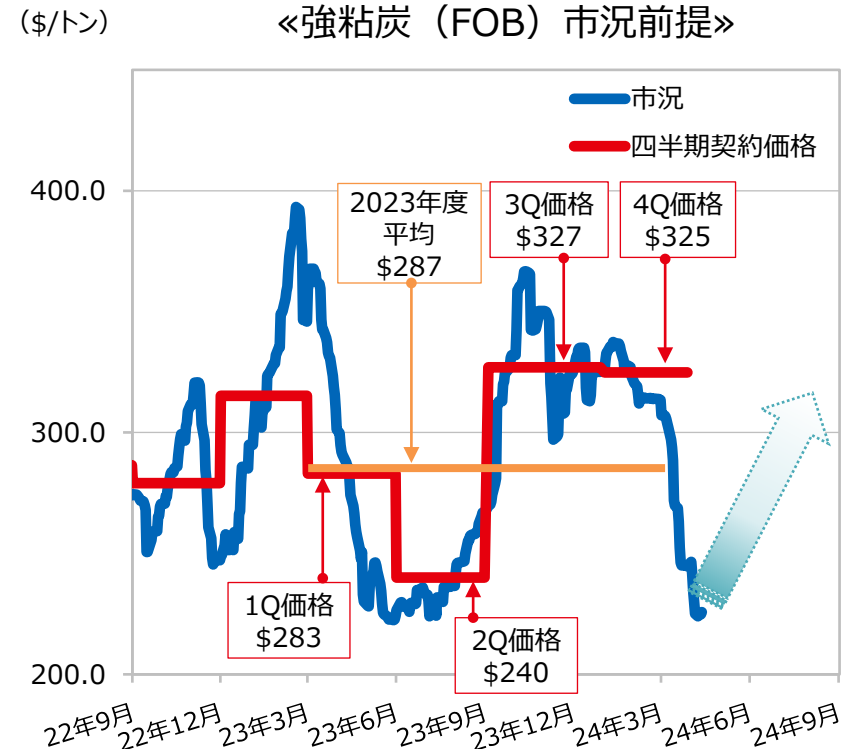
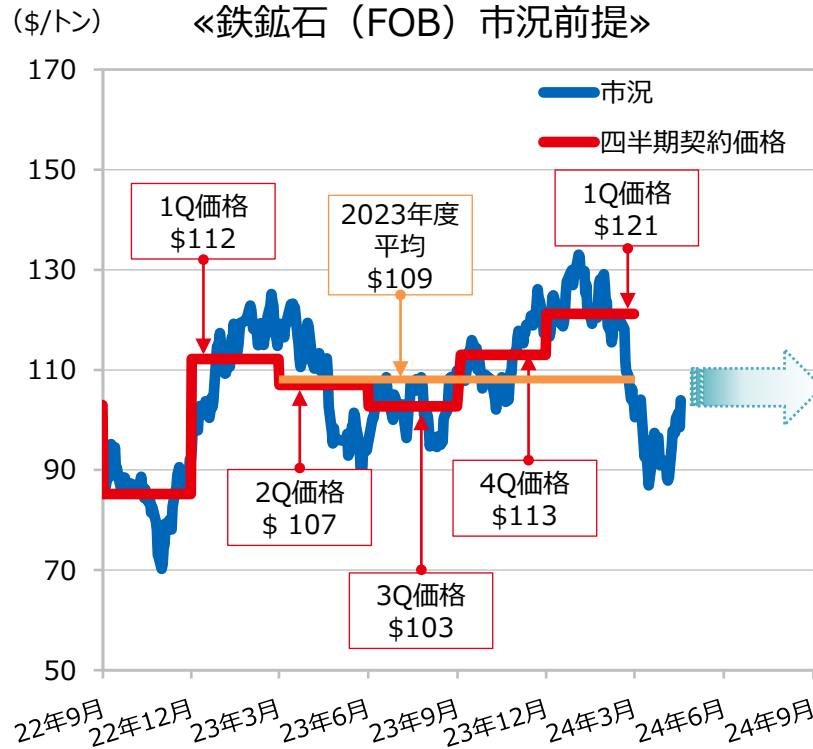
<p>自動車</p>	<p>(鉄鋼、アルミ板、アルミ押出、サスペンション、銅板、鉄粉、溶接)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内は、受注残の消化などによる増加を見込むが、海外は概ね2023年度並みで推移 <p>《日系自動車メーカー生産台数（海外含む）の想定》 * 2019年度平均比</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th>2022年度</th> <th colspan="3">2023年度前回</th> <th colspan="3">2023年度実績</th> <th colspan="3">2024年度見通し</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>上期</th> <th>下期</th> <th>年度</th> <th>上期</th> <th>下期</th> <th>年度</th> <th>上期</th> <th>下期</th> <th>年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>増減率</td> <td>△14%</td> <td>△7%</td> <td>△6%</td> <td>△6%</td> <td>△7%</td> <td>△8%</td> <td>△8%</td> <td>△7%</td> <td>△5%</td> <td>△6%</td> </tr> </tbody> </table>		2022年度	2023年度前回			2023年度実績			2024年度見通し			実績	上期	下期	年度	上期	下期	年度	上期	下期	年度	増減率	△14%	△7%	△6%	△6%	△7%	△8%	△8%	△7%	△5%	△6%
	2022年度		2023年度前回			2023年度実績			2024年度見通し																								
	実績	上期	下期	年度	上期	下期	年度	上期	下期	年度																							
増減率	△14%	△7%	△6%	△6%	△7%	△8%	△8%	△7%	△5%	△6%																							
<p>IT・半導体</p>	<p>(アルミ板、アルミ鋳鍛、銅板)</p> <ul style="list-style-type: none"> ディスク材・半導体製造装置向けともに、回復基調へと転換 																																
<p>造船</p>	<p>(鉄鋼、鋳鍛鋼、溶接)</p> <ul style="list-style-type: none"> 手持ち工事量は高水準なものの、コスト高・人手不足の影響により、建造隻数は概ね2023年度並み 																																
<p>航空機</p>	<p>(チタン、アルミ鋳鍛)</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍終息による世界的な旅客需要の回復に伴い、老朽機リプレイスや新規建造の拡大により、堅調に推移 																																
<p>飲料用缶</p>	<p>(アルミ板)</p> <ul style="list-style-type: none"> 概ね2023年度並み 																																
<p>建築・土木</p>	<p>(鉄鋼、溶接)</p> <ul style="list-style-type: none"> コスト高・人手不足は継続するものの、下期以降の緩やかな需要回復により、2023年度比微増を想定 																																

鉄鉱石： 2024年度1Q価格は\$121で決着済み
 2024年度2Q以降の価格レベルは、2023年度平均並みを想定

強粘炭： 2024年度1Q価格は3月以降の市況下落を踏まえて想定
 2024年度2Q以降は1Q比上昇にて想定

一般炭： 1月以降 \$ 110～130台で推移。2024年度も概ね同水準を想定

原料市況



2. 2023年度 業績

【売上高】 2022年度：2兆4,725億円 → 2023年度：2兆5,431億円（前期比+706億円）

- 素材系事業や建設機械における販売価格改善の進展、機械・エンジニアリングでの受注案件の進捗、電力での神戸発電所4号機の稼働などにより増収

【経常損益】 2022年度：1,068億円 → 2023年度：1,609億円（前期比+540億円）

- 鉄鋼・アルミ板での在庫評価影響の悪化や、建設機械でのエンジン認証問題に関する補償金収入の剥落などがあったものの、鉄鋼メタルスプレッドの改善や、電力での一過性影響などにより増益

(単位：億円)

	2022年度実績			2023年度実績			増減 ②-①
	上期	下期	①	上期	下期	②	
売上高	11,696	13,028	24,725	12,538	12,893	25,431	+706
営業損益	197	665	863	921	944	1,866	+1,002
経常損益	418	650	1,068	916	693	1,609	+540
在庫評価影響を除く	193	635	828	961	603	1,564	+736
特別損益	△26	△61	△87	277	△263	※ 13	+101
親会社株主に帰属する 当期純損益	280	445	725	803	292	1,095	+369

※特別損益の内訳

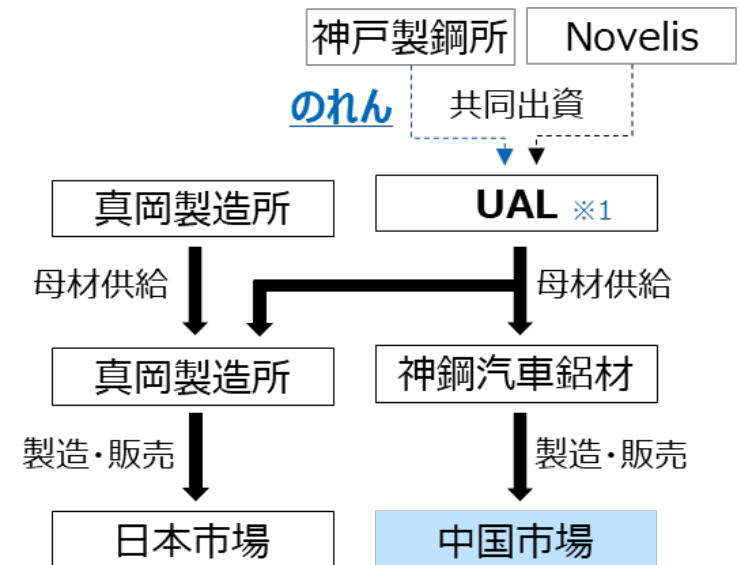
固定資産売却益	293	子会社における固定資産の譲渡益、他
減損損失	△187	固定資産に係る減損損失（詳細はP12参照）
合併契約関連費用引当金繰入額	△92	自動車向けアルミパネル事業の再構築に伴う損失
特別損益	13	（詳細はP10、11参照）

■ 自動車向けアルミパネル事業の再構築に伴う損失について

- 当社の連結子会社で中国天津市にてアルミパネルの製造・販売を行う神鋼汽車鋁材（天津）有限公司（以下、神鋼汽車鋁材）と、中国鉄鋼業最大手の中国宝武鋼鉄集団有限公司が過半出資する宝武鋁業科技有限公司（以下、宝武アルミ）と共同でアルミパネルの製造・販売にかかる合併会社の設立に向けて、宝武アルミと詳細な事業化調査を進めることで合意。（[2月26日プレスリリース資料参照](#)）

- 当社は、アルミパネル事業の推進にあたり、**アルミ母材の供給元として持分法適用会社であるUlsan Aluminum Ltd.（以下、UAL）の株式を取得^{※1}**し、真岡製造所・神鋼汽車鋁材との連携の元、日本国内及びアジア圏での安定的な供給体制を整備。
- 今回の宝武アルミとの合意を契機とした**アルミパネル事業の「再構築」**にあたり、**中国市場向けの母材供給元を段階的に宝武アルミへ切り替える予定であるが**、お客様での材料承認等に一定の時間を要するため、**当面の間は、UALからの母材供給の継続が必要。**
- 将来的なUALの供給余力については、活用方法を検討。

【現行のアルミパネル取引図】



※1 Novelis Inc.の100%子会社であるNovelis Korea Ltd.とのアルミ板圧延品製造の合併会社
[（2017年5月10日プレスリリース）](#)

パネル事業再構築の方針を踏まえて、2023年度でUALに関する△239億円の損失処理を実施。

①UAL株式の評価損 △146億円

（経常損益：持分法投資損失）

- アルミパネル事業の再構築に伴い「のれん相当額」に減損の兆候が生じたため、評価損を計上。

②UALの供給余力見合いの「固定費相当額」の引当 △92億円

（特別損失：合併契約関連費用引当金繰入額）

- 合併契約において、**当社は一定の供給能力を得ると同時に、同能力に対する固定費相当額の負担**を規定。
- 今後、段階的にUALの供給余力が生じる見込みとなったため、**当該余力見合いの「固定費相当額」の引当**を実施。

【パネル事業の再構築スケジュール】

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度～
中国自動車パネル事業の再構築		宝武アルミとのJV設立	母材供給を宝武アルミへ切替		
			UAL余力活用検討		

■ アルミ素形材での固定資産減損損失について

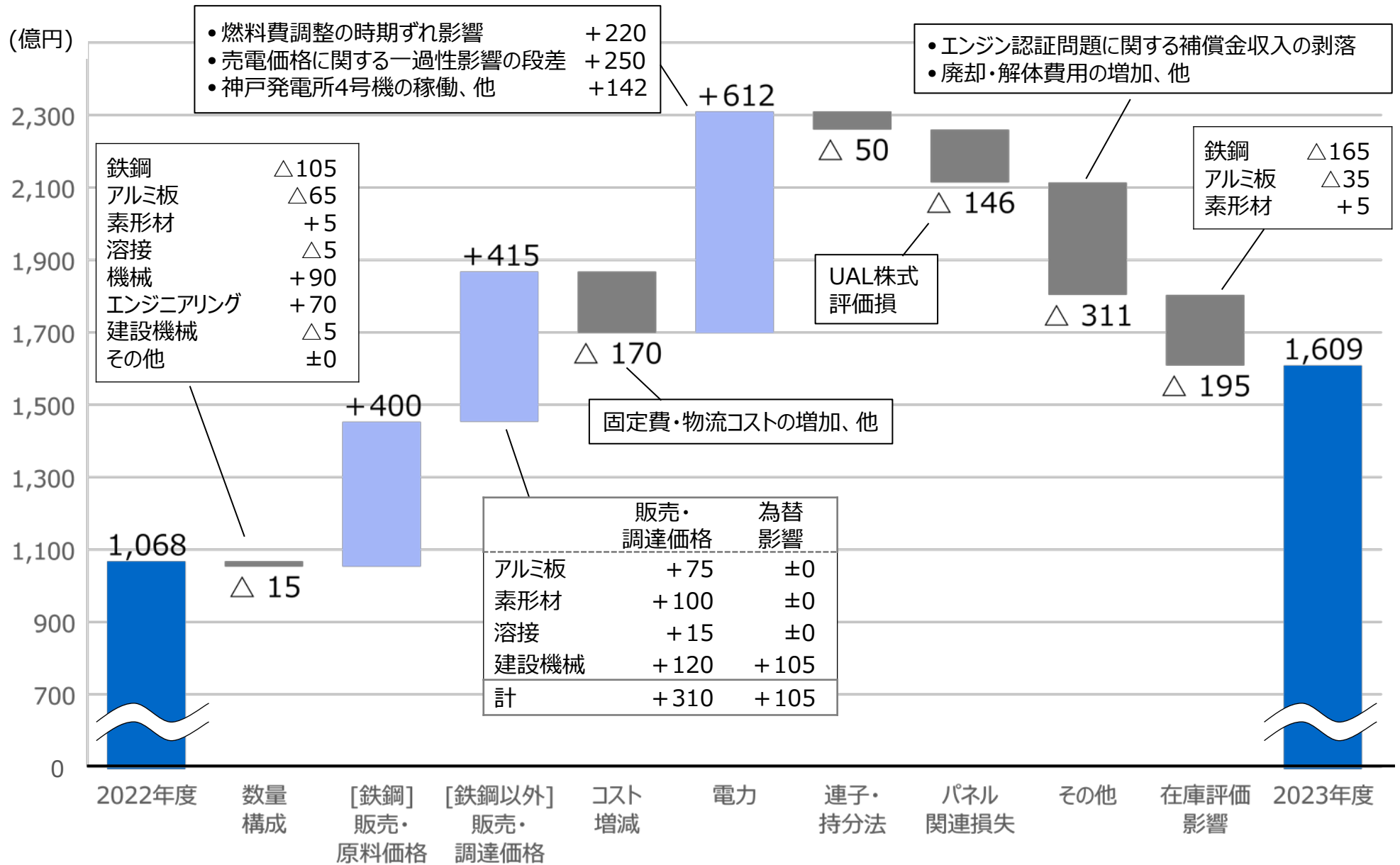
- アルミサスペンション事業（米国）については、**生産性が想定を下回る状況が継続**。
- アルミ押出事業（日本・米国）については、**自動車向けを中心とした受注の低迷が継続**。
- **当該事業の収益性が低下したことを踏まえ、2023年度決算にて固定資産の減損損失を計上**。引き続き、**拡販等によるベースとなる収益改善に取り組むと共に、取引条件の改善や最適生産体制への転換等による事業構造改革を推進**。

固定資産 減損損失の内訳

（単位：億円）

用途		減損損失
アルミサスペンション製造資産	米国	△67
アルミ押出製造資産	日本	△65
	米国	△48
その他		△7
合計		△187

**アルミ素形材
計△180億円**



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

【売上高】

(単位：億円)

	2022年度 実績 ①	2023年度 実績 ②	増減 ②-①
鉄鋼アルミ	11,051	10,827	△224
素形材	2,777	2,981	+203
溶接	884	935	+50
機械	※ 2,034	2,345	+310
エンジニアリング	1,452	1,706	+254
建設機械	3,817	4,040	+222
電力	3,243	3,159	△84
その他	※ 109	108	△1
調整額	△646	△671	△25
合計	24,725	25,431	+706

【経常損益】

(単位：億円)

	2022年度 実績 ③	2023年度 実績 ④	増減 ④-③
鉄鋼アルミ	419	161	△258
素形材	9	32	+22
溶接	28	49	+20
機械	※ 157	296	+138
エンジニアリング	41	124	+82
建設機械	123	91	△32
電力	245	857	+612
その他	※ 48	48	△0
調整額	△7	△51	△44
合計	1,068	1,609	+540

※ (株)コベルコ科研について、2023年度より「その他セグメント」から「機械セグメント」に変更
これに伴い、対比元の2022年度実績数値を再集計

(単位：億円)

		2022年度実績			2023年度実績			増減 ②-①
		上期	下期	①	上期	下期	②	
鉄鋼	売上高	4,383	4,713	9,097	4,524	4,392	8,916	△180
	経常損益	210	279	490	259	133	392	△97
	在庫評価影響を除く	60	274	335	324	78	402	+67
アルミ板	売上高	981	972	1,954	965	945	1,911	△43
	経常損益 ※	12	△83	△70	△51	△179	△231	△160
	在庫評価影響を除く	△42	△83	△125	△61	△189	△251	△126
合計	売上高	5,365	5,686	11,051	5,489	5,337	10,827	△224
	経常損益	223	196	419	207	△46	161	△258
	在庫評価影響を除く	18	191	210	262	△111	151	△59

※ [アルミ板] 在庫評価影響および自動車向けアルミパネル事業の再構築に伴う損失を除く経常損益（詳細はP10、11参照）

経常損益 (在庫評価影響・パネル関連損失除く)	△42	△83	△125	△61	△43	△105	+20
----------------------------	-----	-----	------	-----	-----	------	-----

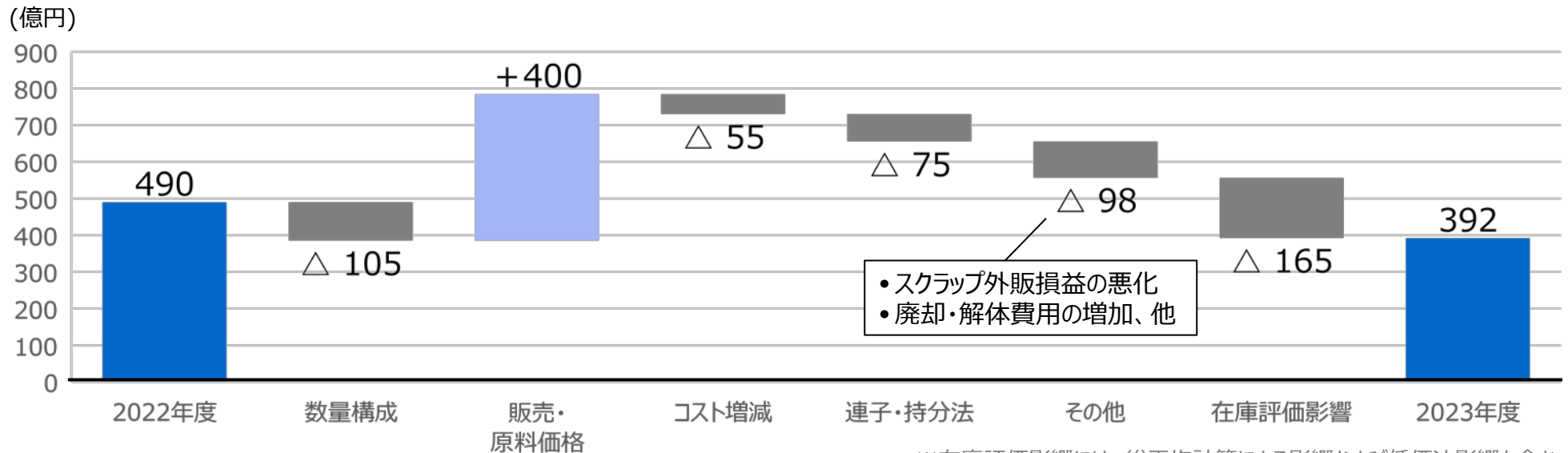
鉄
鋼

【売上高】 2022年度：9,097億円 → 2023年度：8,916億円（前期比△180億円）

【経常損益】 2022年度：490億円 → 2023年度：392億円（前期比△97億円）

- 粗鋼生産：597万t（前期比△21万t）
- 販売数量：469万t（前期比△28万t）
 - 自動車向けの需要が増加した一方、厚板工場・仕上圧延機の更新影響などにより減少
- 販売価格：142,700円/t（前期比+2,600円/t）
- 損益変動要因
 - 販売数量の減少（厚板工場・仕上圧延機の更新影響を含む）
 - メタルスプレッドの改善（販売価格改善の進展と原料炭価格の下落）
 - 米国関係会社の業績悪化
 - 在庫評価影響の悪化

※関連データはP48、P49



アルミ板

【売上高】 2022年度：1,954億円 → 2023年度：1,911億円（前期比 △43億円）

【経常損益】 2022年度：△70億円 → 2023年度：△231億円（前期比△160億円）

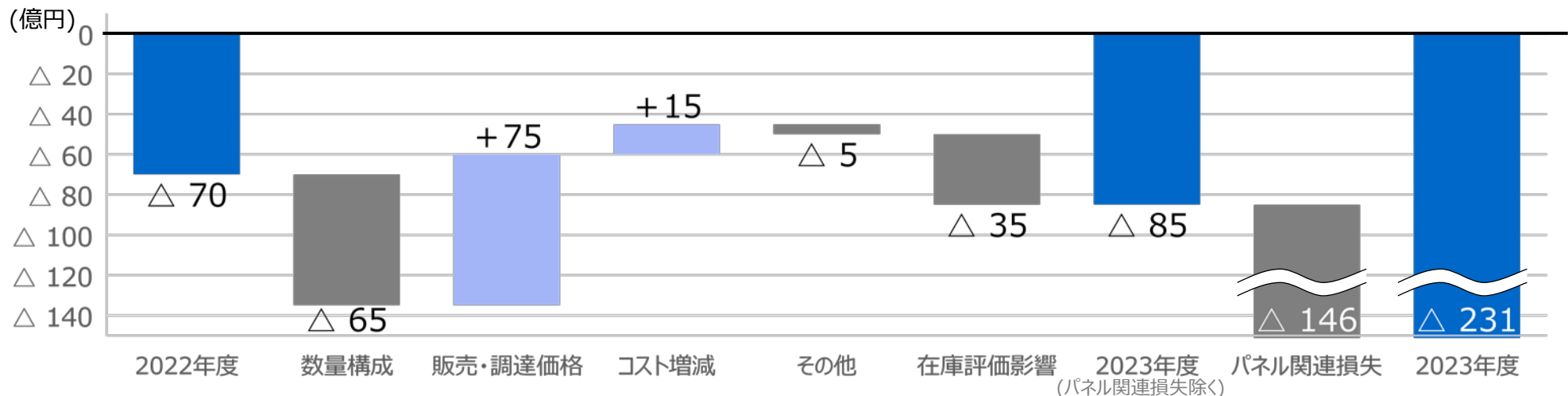
■ 販売数量：314千t（前期比△23千t）

- 飲料用缶材向け：当社受注製品の需要減により減少
- 自動車向け：前期並み
- IT・半導体向け：半導体製造装置向け厚板、データセンター向けディスク材ともに、需要の調整局面を受けて大幅に減少

■ 損益変動要因

- 販売数量の減少
- 調達コスト上昇分の販売価格への転嫁の進展
- 在庫評価益の縮小
- 自動車向けアルミパネル事業の再構築に伴う損失の計上（詳細はP10、11参照）

※関連データはP48、P49



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

(単位：億円)

	2022年度実績			2023年度実績			増減 ②-①
	上期	下期	①	上期	下期	②	
売上高	1,331	1,446	2,777	1,418	1,562	2,981	+203
経常損益	14	△5	9	△0	32	32	+22
在庫評価影響を除く	△5	△15	△21	△10	7	△3	+18

※関連データはP48、P49

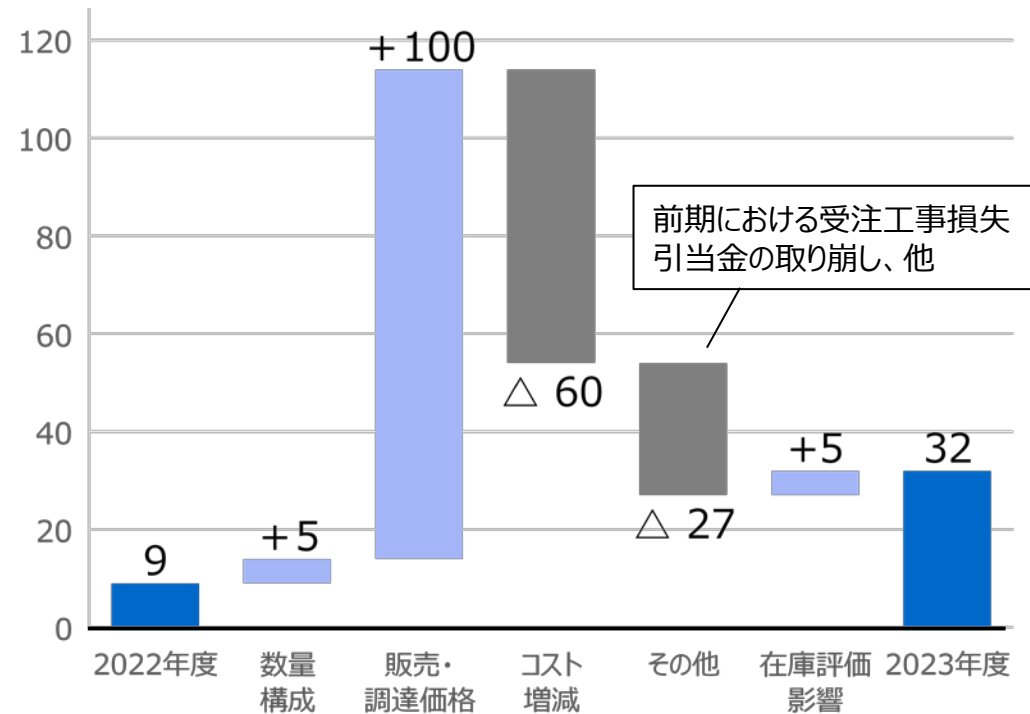
■ 販売数量

- 造船向け需要の取り込みにより、鋳鍛鋼で増加
- 自動車向け需要の回復により、アルミ押出・サスペンションで増加
- IT・半導体向け需要の減少により、銅板、アルミ鋳鍛で減少

■ 損益変動要因

- 販売数量の増加
- 調達コスト上昇分の販売価格への転嫁の進展
- 労務費などの固定費を中心としたコストの増加

(億円)



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

(単位：億円)

	2022年度実績			2023年度実績			増減 ②-①
	上期	下期	①	上期	下期	②	
売上高	421	462	884	464	470	935	+50
経常損益	8	19	28	15	33	49	+20

※関連データはP48

■ 販売数量

- 国内：前期並み
- 海外：東南アジアでの需要回復遅れや、中国での日系自動車・建設機械向け需要減などにより減少

■ 損益変動要因

- 販売数量の減少
- 調達コスト上昇分の販売価格への転嫁の進展

(単位：億円)

	2022年度実績 ※			2023年度実績			増減 ②-①
	上期	下期	①	上期	下期	②	
売上高	927	1,106	2,034	1,032	1,312	2,345	+310
経常損益	50	107	157	103	192	296	+138
受注高	1,194	1,464	2,659	1,158	1,579	2,737	+78
受注残高			2,147			2,518	+371

※ (株)コベルコ科研について、2023年度より「その他セグメント」から「機械セグメント」に変更
これに伴い、対比元の2022年度実績数値を再集計

■ 受注高

- 石油化学・エネルギー向けを中心とした増加により、過去最高を更新

■ 損益変動要因

- 前年度の好調な受注やサービス案件の増加に伴う売上高の増加
- 好調な需要を受けた受注採算の改善

(単位：億円)

	2022年度実績			2023年度実績			増減 ②-①
	上期	下期	①	上期	下期	②	
売上高	611	840	1,452	751	954	1,706	+254
経常損益	9	32	41	62	62	124	+82
受注高	772	802	1,575	1,224	918	2,143	+567
受注残高			3,711			4,336	+625

■ 受注高

- 還元鉄関連事業で海外大型案件を受注したことや、廃棄物処理関連事業での堅調な受注などにより増加

■ 損益変動要因

- 還元鉄関連事業や廃棄物処理関連事業を中心とした案件構成差

(単位：億円)

	2022年度実績			2023年度実績			増減 ②-①
	上期	下期	①	上期	下期	②	
売上高	1,837	1,979	3,817	1,926	2,114	4,040	+222
経常損益	100	23	123	50	40	91	△32

※関連データはP48

■ 販売台数

[油圧ショベル]

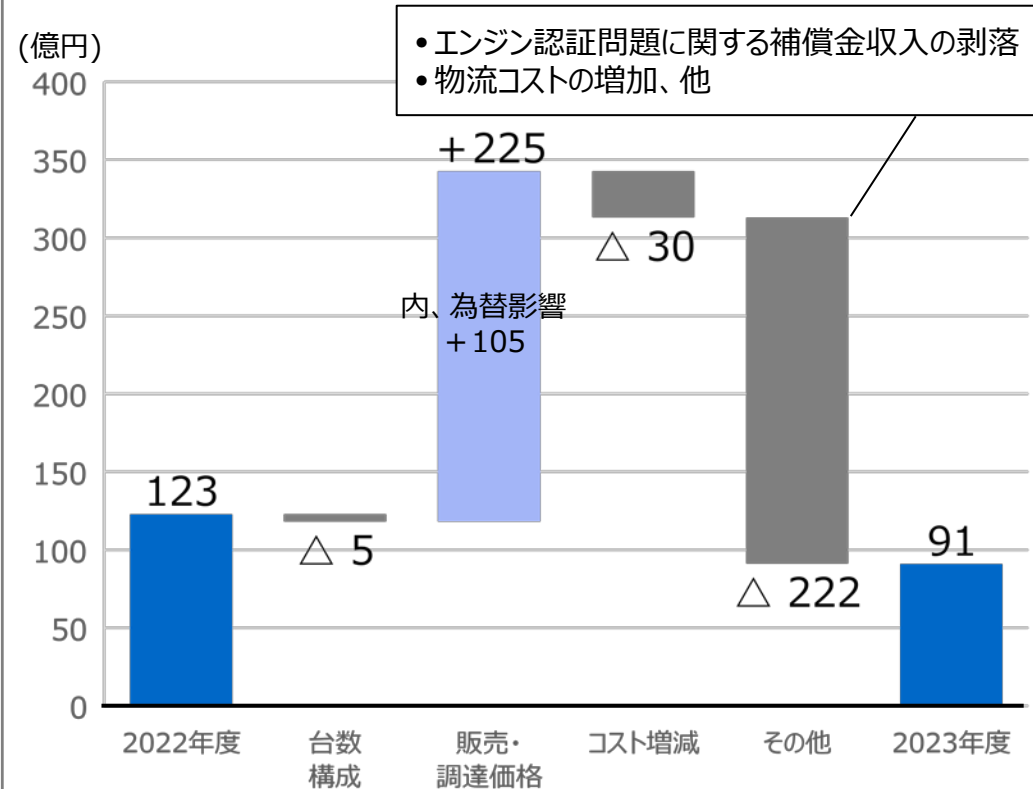
- 中国は需要低迷により減少
- 欧州はエンジン認証問題などにより減少
- 北米などで増加

[クローラクレーン]

- 欧州はエンジン認証問題などにより減少
- 北米などで増加

■ 損益変動要因

- 販売価格改善の進展
- 対ドル、ユーロでの円安による輸出採算の改善
- エンジン認証問題に関する補償金収入の剥落



(単位：億円)

	2022年度実績			2023年度実績			増減 ②-①
	上期	下期	①	上期	下期	②	
売上高	1,475	1,768	3,243	1,727	1,431	3,159	△84
経常損益	△13	259	245	474	383	857	+612

■ 販売電力量

- 神戸発電所4号機（2023年2月に営業運転開始）の稼働に伴い増加

■ 販売単価

- 一般炭価格の変動に伴い前期比で下落

■ 損益変動要因

- 神戸発電所4号機の稼働
- 神戸発電所3・4号機における燃料費調整の時期ずれ影響の改善
- 神戸発電所1～4号機における売電価格に関する一過性の増益影響

※関連データはP54

期間損益の主な変動要素	2022年度	2023年度	対前期
	実績①	実績②	②-①
燃料費調整の時期ずれ [3・4号機のみ] ・ 石炭価格の上下に伴い必ず生じる。(3～5ヶ月前の貿易統計値を参照) ・ 長期で見れば増益・減益が相殺される。	±0億円 上期 △100億円 下期 +100億円	+220億円 上期 +160億円 下期 +60億円	+220億円 上期 +260億円 下期 △40億円
売電価格に関する一過性の増益影響 [1・2号機、3・4号機共通] (貿易統計価格と当社購入価格の差異) ・ 基本的には乖離が生じない仕組みでの購入を方針とするものの、外部要因にてイレギュラー的に発生する可能性あり。	△50億円 上期 △50億円 下期 ー億円	+200億円 上期 +80億円 下期 +120億円	+250億円 上期 +130億円 下期 +120億円

3. 2024年度 業績見通し

【売上高】 2023年度：2兆5,431億円 → 2024年度：2兆6,600億円（前期比+1,169億円）

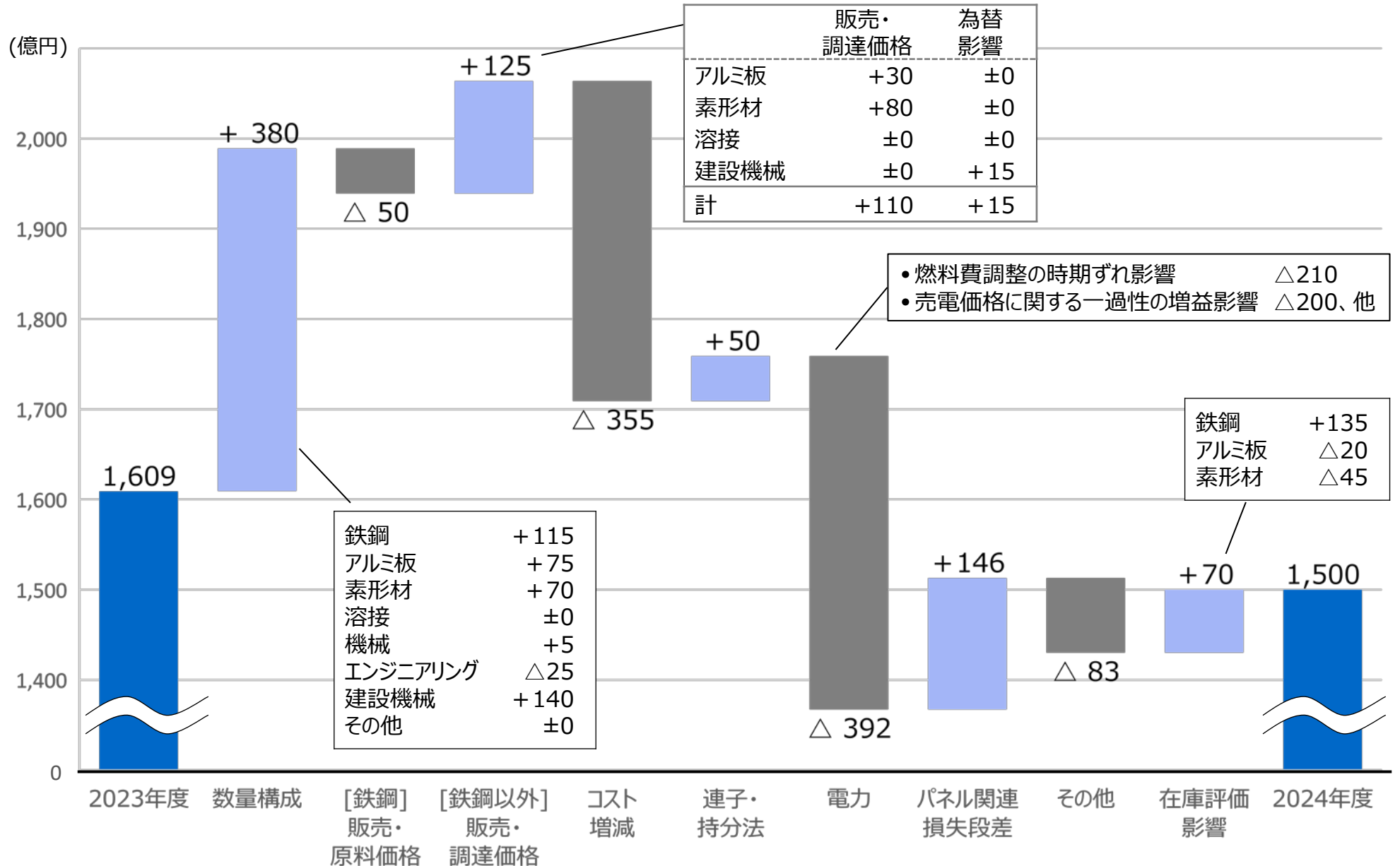
- 鉄鋼での厚板工場・仕上圧延機の更新完了及びアルミ板・素形材でのIT・半導体向けを中心とした販売数量の増加、建設機械でのエンジン認証問題の段階的な解消による販売台数の増加
- 電力での石炭市況の変動に伴う減収

【経常損益】 2023年度： 1,609億円 → 2024年度： 1,500億円（前期比 △109億円）

- 販売数量の増加
- 固定費を中心としたコストの増加及び価格転嫁・価格改善の推進
- 電力での一過性影響の剥落
- 自動車向けアルミパネル事業の再構築に伴う損失の段差

(単位：億円)

	2023年度実績			2024年度見通し			増減 ②-①
	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	
売上高	12,538	12,893	25,431	13,000	13,600	26,600	+1,169
営業損益	921	944	1,866	700	950	1,650	△216
経常損益	916	693	1,609	650	850	1,500	△109
在庫評価影響を除く	961	603	1,564	600	785	1,385	△179
特別損益	277	△263	13	-	-	-	△13
親会社株主に帰属する 当期純損益	803	292	1,095	550	650	1,200	+105



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

【売上高】

(単位：億円)

	2023年度実績 通期 ①	2024年度見通し			増減 ②-①
		上期	下期	通期 ②	
鉄鋼アルミ	10,827	5,660	5,910	11,570	+743
素形材	2,981	1,590	1,710	3,300	+319
溶接	935	480	530	1,010	+75
機械	2,345	1,300	1,350	2,650	+305
エンジニアリング	1,706	830	1,060	1,890	+184
建設機械	4,040	2,170	2,180	4,350	+310
電力	3,159	1,220	1,160	2,380	△779
その他	108	40	70	110	+2
調整額	△671	△290	△370	△660	+11
合計	25,431	13,000	13,600	26,600	+1,169

【経常損益】

(単位：億円)

	2023年度実績 通期 ①	2024年度見通し			増減 ②-①
		上期	下期	通期 ②	
鉄鋼アルミ	161	195	205	400	+239
素形材	32	△5	65	60	+28
溶接	49	20	25	45	△4
機械	296	120	165	285	△11
エンジニアリング	124	60	50	110	△14
建設機械	91	30	110	140	+49
電力	857	240	225	465	△392
その他	48	20	25	45	△3
調整額	△51	△30	△20	△50	+1
合計	1,609	650	850	1,500	△109

(単位：億円)

		2023年度実績			2024年度見通し			増減 ②-①
		上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	
鉄鋼	売上高	4,524	4,392	8,916	4,650	4,840	9,490	+574
	経常損益	259	133	392	215	180	395	+3
	在庫評価影響を除く	324	78	402	160	110	270	△132
アルミ板	売上高	965	945	1,911	1,010	1,070	2,080	+169
	経常損益 ※	△51	△179	△231	△20	25	5	+236
	在庫評価影響を除く	△61	△189	△251	△20	25	5	+256
合計	売上高	5,489	5,337	10,827	5,660	5,910	11,570	+743
	経常損益	207	△46	161	195	205	400	+239
	在庫評価影響を除く	262	△111	151	140	135	275	+124

※ [アルミ板] 在庫評価影響および自動車向けアルミパネル事業の再構築に伴う損失を除く経常損益 (詳細はP10、11参照)

経常損益 (在庫評価影響・パネル関連損失除く)	△61	△43	△105	△20	25	5	+110
----------------------------	-----	-----	------	-----	----	---	------

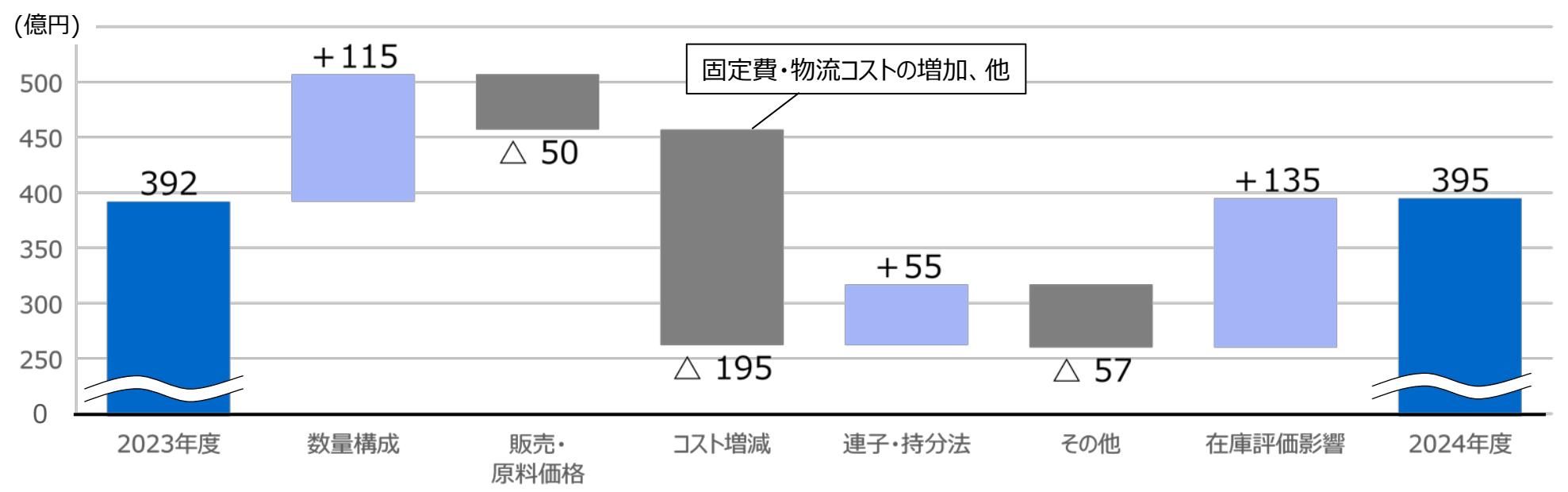
鉄
鋼

【売上高】 2023年度：8,916億円 → 2024年度：9,490億円（前期比+574億円）

【経常損益】 2023年度： 392億円 → 2024年度： 395億円（前期比 +3億円）

- 粗鋼生産：600万t程度（2023年度並み）
- 販売数量：480万t程度（2023年度比+10万t程度）
 - 厚板工場・仕上圧延機の更新完了による生産回復等により増加
- 損益変動要因
 - 販売数量の増加
 - 人件費や資材・物流費等の物価高騰影響を背景としたコストの増加及び価格転嫁の推進
 - 在庫評価益の計上

※関連データはP48、P49



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

アルミ板

【売上高】 2023年度：1,911億円 → 2024年度：2,080億円（前期比+169億円）

【経常損益】 2023年度：△231億円 → 2024年度：5億円（前期比+236億円）

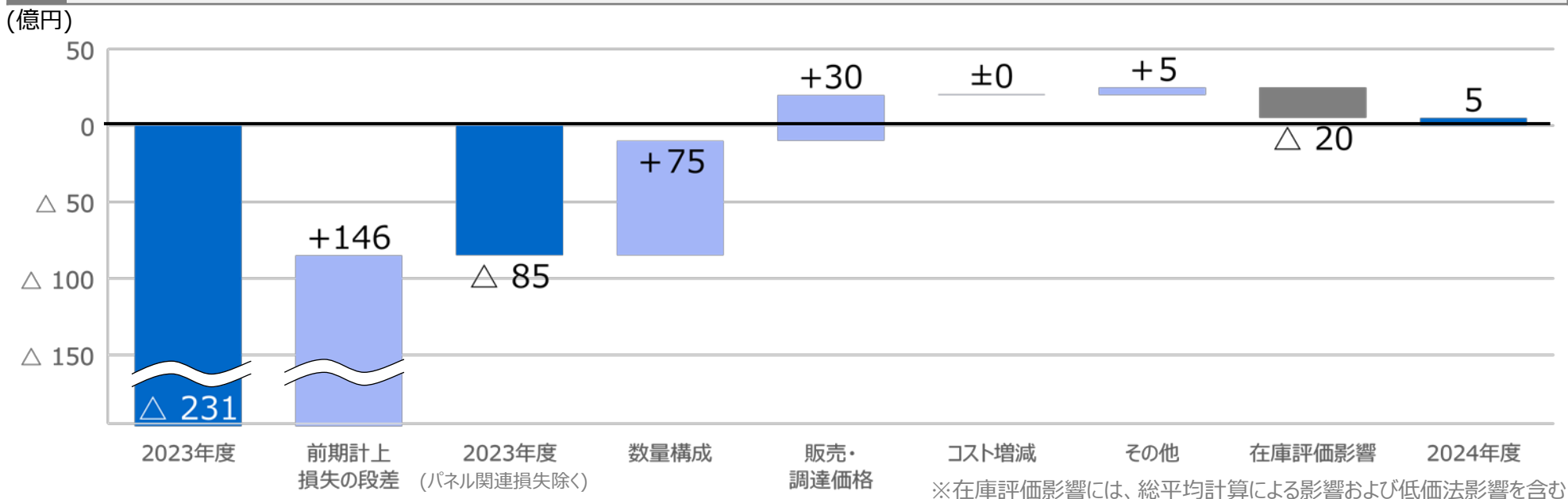
■ 販売数量：350千t程度（2023年度比+40千t程度）

- 飲料用缶材向け：拡販による増加
- 自動車向け：2023年度並み
- IT・半導体向け：需要調整局面の解消により増加

■ 損益変動要因

- 販売数量の増加
- コスト上昇に対応した価格転嫁の進展
- 自動車向けアルミパネル事業の再構築に伴う損失の段差

※関連データはP48、P49

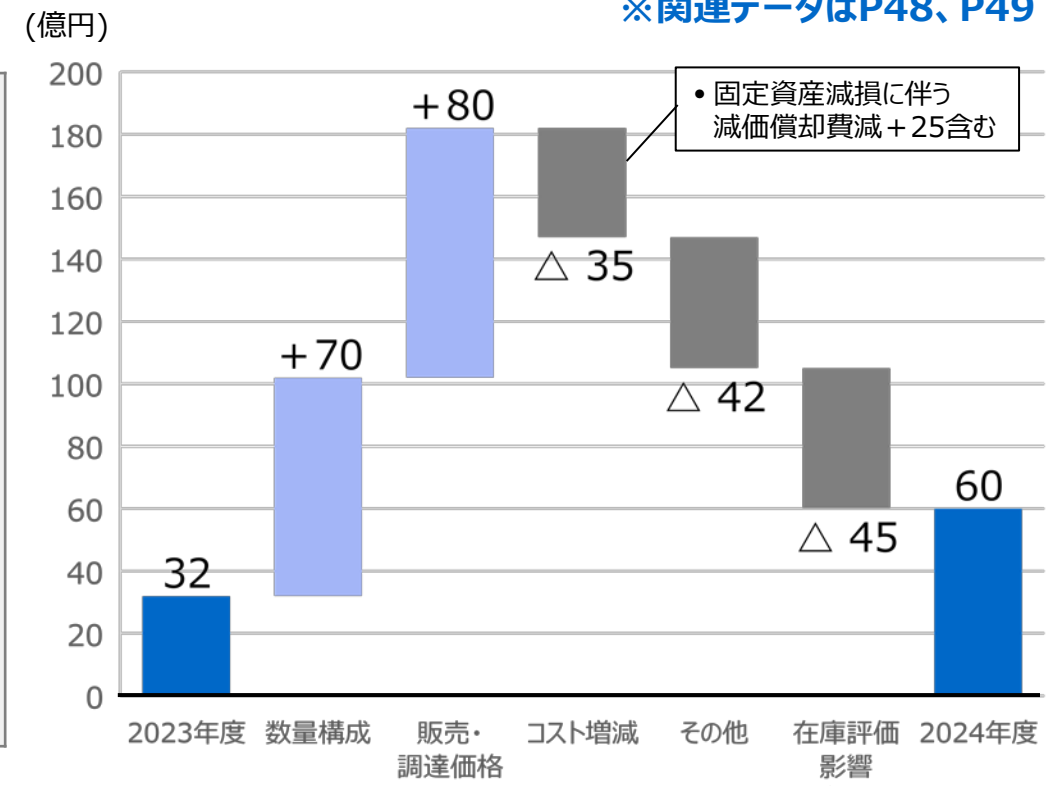


(単位：億円)

	2023年度実績			2024年度見通し			増減 ②-①
	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	
売上高	1,418	1,562	2,981	1,590	1,710	3,300	+319
経常損益	△0	32	32	△5	65	60	+28
在庫評価影響を除く	△10	7	△3	0	70	70	+73

※関連データはP48、P49

- 販売数量
 - IT・半導体向け需要の回復により、銅板、アルミ 鋳鍛で増加
 - 自動車向け需要は堅調に推移し、アルミ押出・サスペンションで増加
- 損益変動要因
 - 販売数量の増加
 - 調達コスト上昇分等の販売価格への転嫁・価格改善の進展



(単位：億円)

	2023年度実績			2024年度見通し			増減 ②-①
	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	
売上高	464	470	935	480	530	1,010	+75
経常損益	15	33	49	20	25	45	△4

※関連データはP48

■ 販売数量

- 国内：2023年度並み
- 海外：東南アジアでの需要回復等により増加

■ 損益変動要因

- 販売数量の増加
- 固定費を中心としたコストの増加

(単位：億円)

	2023年度実績			2024年度見通し			増減 ②-①
	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	
売上高	1,032	1,312	2,345	1,300	1,350	2,650	+305
経常損益	103	192	296	120	165	285	△11
受注高	1,158	1,579	2,737	1,250 程度	1,150 程度	2,400 程度	△350 程度

■ 受注高

- 2023年度に受注した大型案件の反動により2023年度比で減少するものの、引き続き高水準の受注高を想定

■ 損益変動要因

- 固定費を中心としたコストの増加

(単位：億円)

	2023年度実績			2024年度見通し			増減 ②-①
	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	
売上高	751	954	1,706	830	1,060	1,890	+184
経常損益	62	62	124	60	50	110	△14
受注高	1,224	918	2,143	1,200 程度	600 程度	1,800 程度	△350 程度

■ 受注高

- 還元鉄関連事業で海外案件の受注を見込むものの、廃棄物処理関連事業の大型案件が複数あった2023年度と比べると減少

■ 損益変動要因

- 案件構成差等

(単位：億円)

	2023年度実績			2024年度見通し			増減 ②-①
	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	
売上高	1,926	2,114	4,040	2,170	2,180	4,350	+310
経常損益	50	40	91	30	110	140	+49

※関連データはP48

■ 販売台数

[油圧ショベル]

- 欧州でのエンジン認証問題の段階的な解消により増加

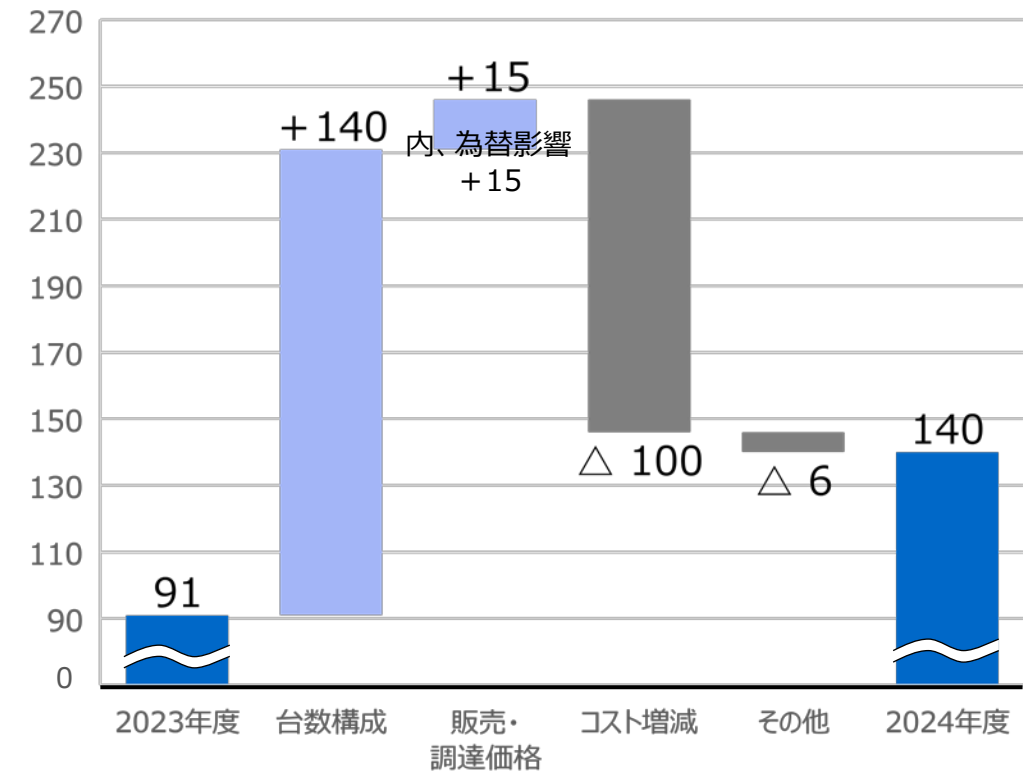
[クローラクレーン]

- 欧州・北米でのエンジン認証問題の段階的な解消により増加

■ 損益変動要因

- 販売台数の増加
- 固定費を中心としたコストの増加

(億円)



(単位：億円)

	2023年度実績			2024年度見通し			増減 ②-①
	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	
売上高	1,727	1,431	3,159	1,220	1,160	2,380	△779
経常損益	474	383	857	240	225	465	△392

※関連データはP54

- 販売電力量：2023年度並み
- 販売単価：石炭市況の変動に伴う下落
- 損益変動要因
 - 神戸発電所3・4号機における燃料費調整の時期ずれによる増益影響の縮小
 - 神戸発電所1～4号機における売電価格に関する一過性の増益影響の剥落

期間損益の主な変動要素	2023年度	2024年度	対前期
	実績①	見通し②	②-①
燃料費調整の時期ずれ [3・4号機のみ]	+220億円	+10億円	△210億円
売電価格に関する一過性の増益影響 [1・2号機、3・4号機共通] (貿易統計価格と当社購入価格の差異)	+200億円	±0億円	△200億円

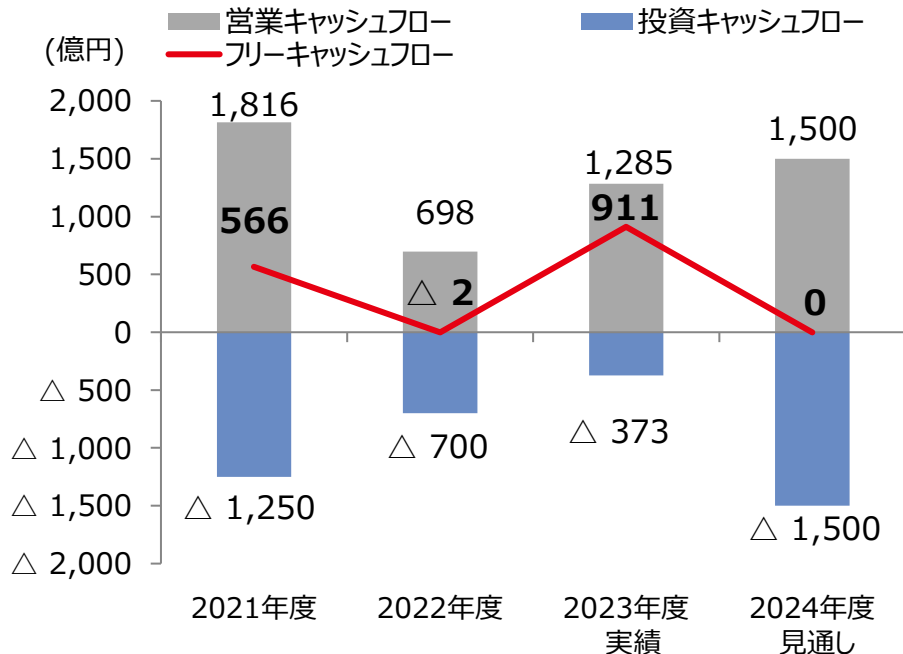
■ 2023年度

- フリーキャッシュフローは、業績の安定や資産売却などにより**911億円**。D/エレシオは有利子負債の削減により**0.55倍**となり、中期経営計画で掲げた0.7倍以下を堅持。

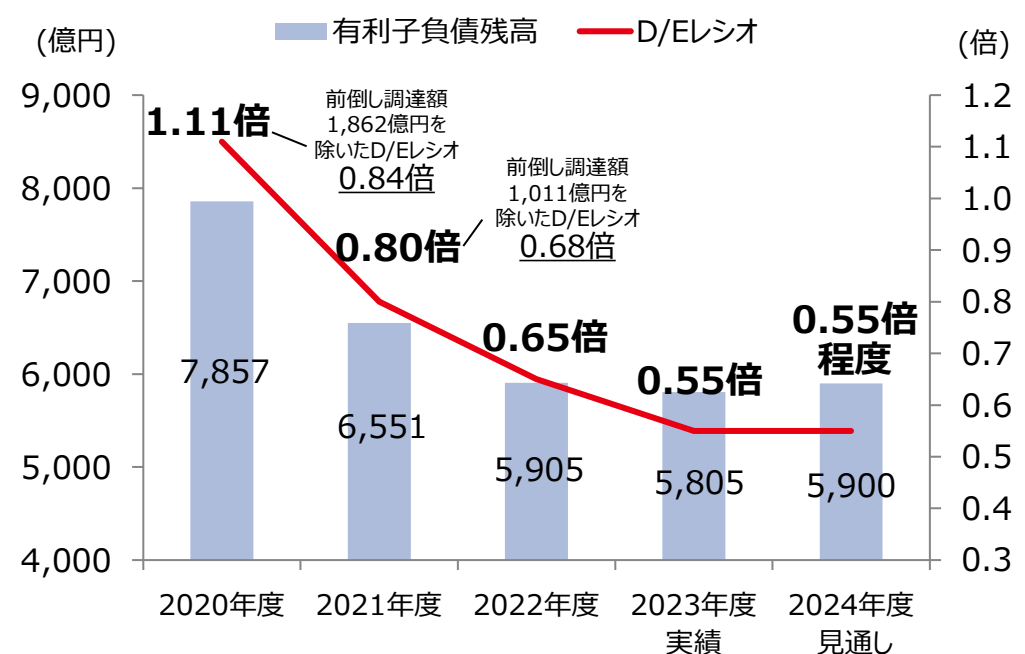
■ 2024年度

- 前中期（2021～2023年度）では、新規の設備投資・投融資を厳選してきたが、収益基盤の更なる強化に取り組むべく、**営業キャッシュフロー1,500億円と同水準の投資キャッシュフローを想定**。
- 引き続き、ROIC管理の深化を図り、運転資本の適正化などの投下資本の管理を強化するとともに、業績変動リスクや将来の大型投資にも耐え得る財務基盤の更なる強化を推進。

《フリーキャッシュフロー》



《有利子負債残高・D/エレシオ》

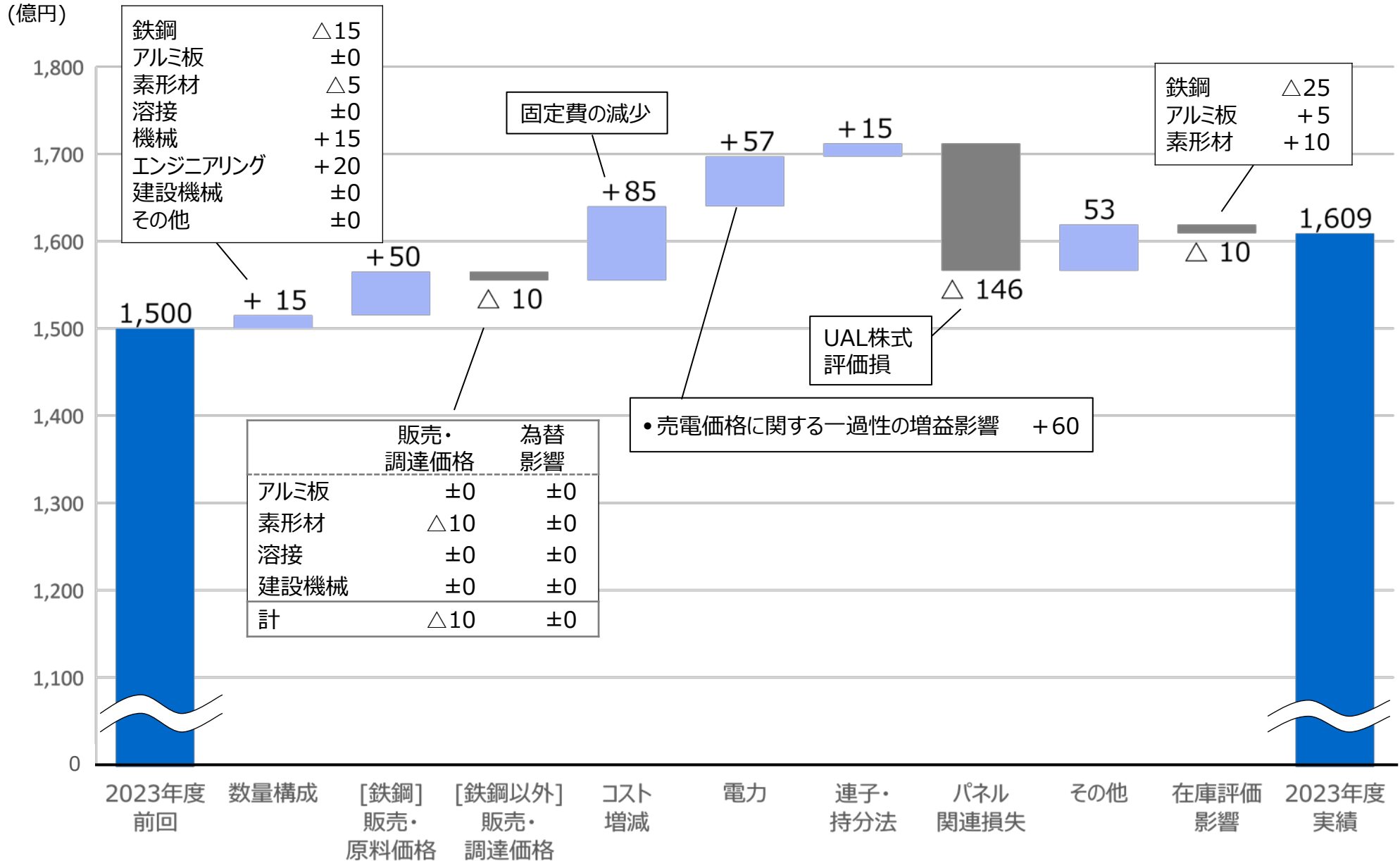


※フリーキャッシュフローおよびD/エレシオに、プロジェクトファイナンスは含まない

- 配当につきましては、継続的かつ安定的に実施していくことを基本としつつ、財政状態、業績の動向、先行きの資金需要などを総合的に考慮して決定することとしております。
- 配当性向の目安につきましては、2023年度より「親会社株主に帰属する当期純利益（連結）の30%程度」としております。
- これに基づき、当期の期末配当につきましては、1株につき45円（年間90円）とする方針を決議しております。
- また、2024年度の配当につきましては、本日の取締役会において、中間配当は1株につき45円、期末配当は同45円（年間90円）とする方針を決議いたしました。

	2023年度			2024年度（方針）		
	中間	期末		中間	期末	
配当金額（円/株）	45	45	90	45	45	90
配当性向			32.4%			29.6%

4. 参考情報



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

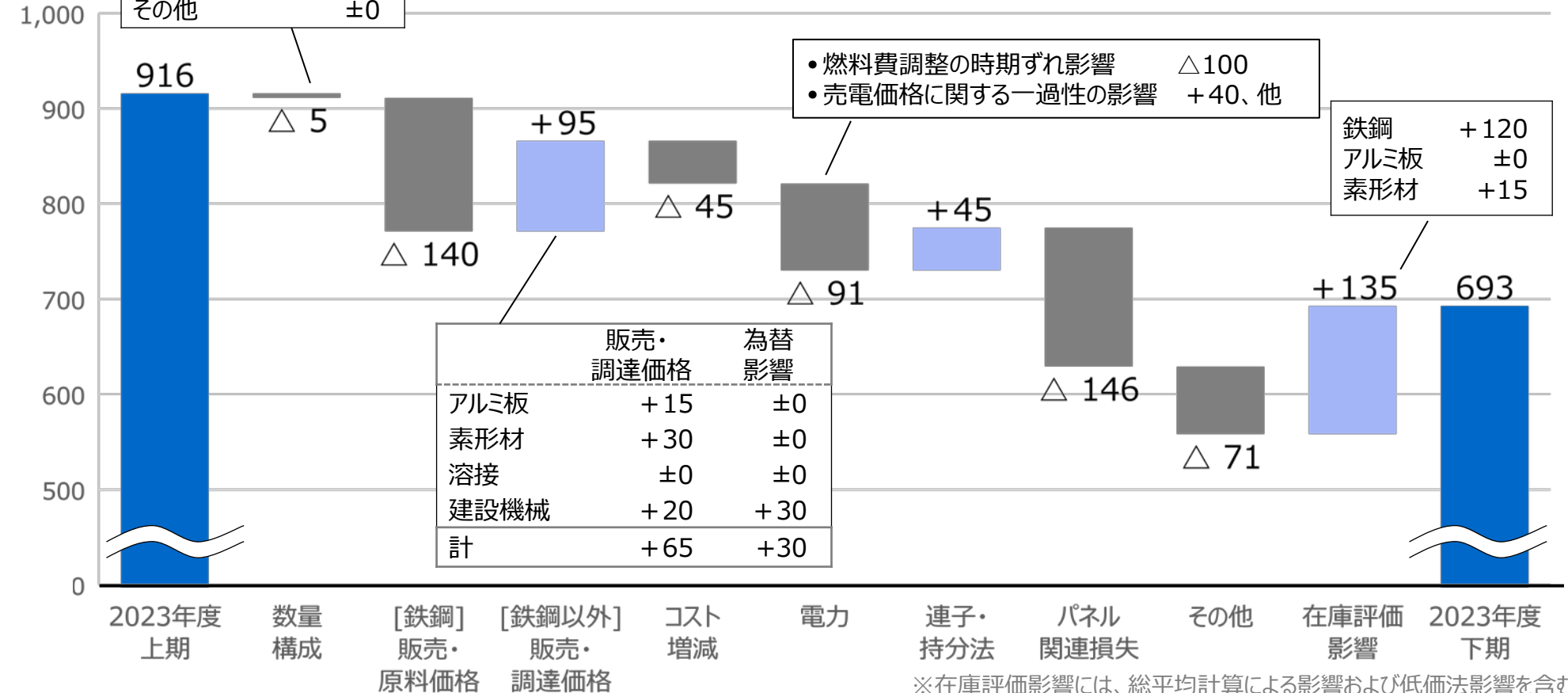
【全社 経常損益】

（単位：億円）

	2023年度実績		
	上期	下期	通期
全社	916	693	1,609

鉄鋼	△95
アルミ板	+15
素形材	±0
溶接	±0
機械	+50
エンジニアリング	+25
建設機械	±0
その他	±0

（億円）



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

【鉄鋼 経常損益】

（単位：億円）

	2023年度実績		
	上期	下期	通期
鉄鋼	259	133	392

△126

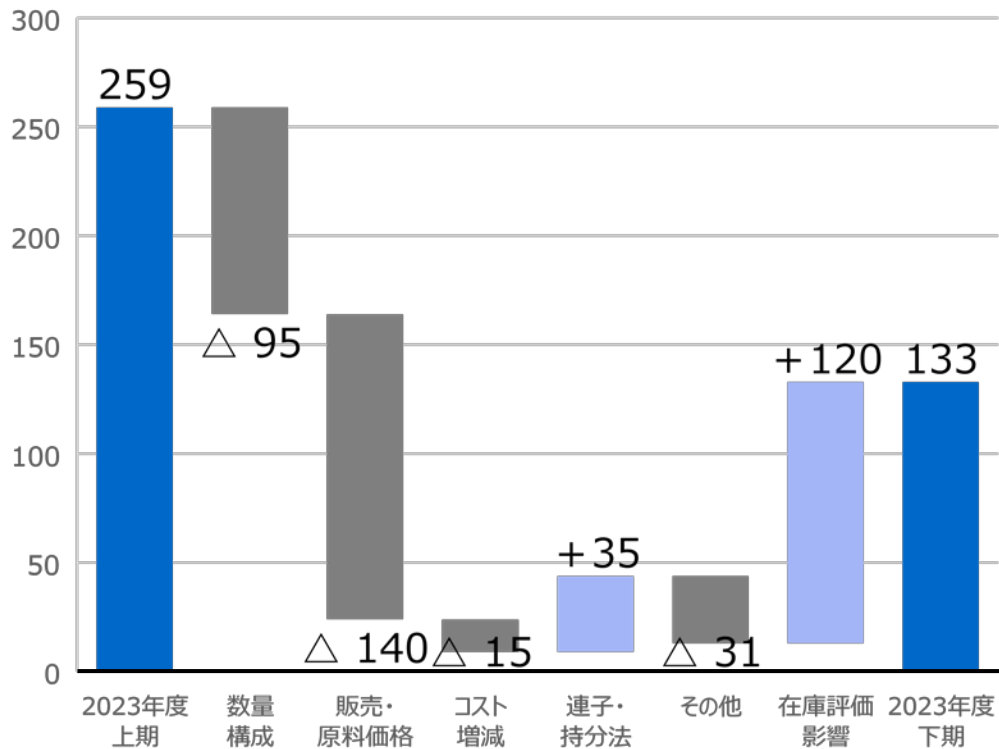
【アルミ板 経常損益】

（単位：億円）

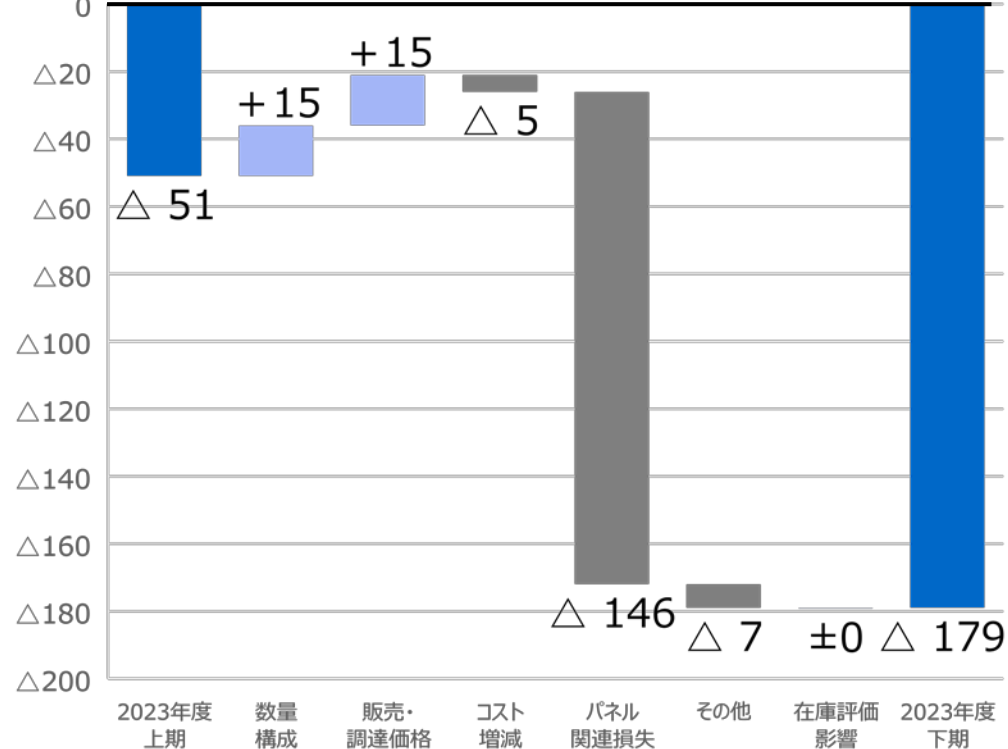
	2023年度実績		
	上期	下期	通期
アルミ板	△51	△179	△231

△128

（億円）



（億円）



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

【素形材 経常損益】

（単位：億円）

	2023年度実績		
	上期	下期	通期
素形材	△ 0	32	32



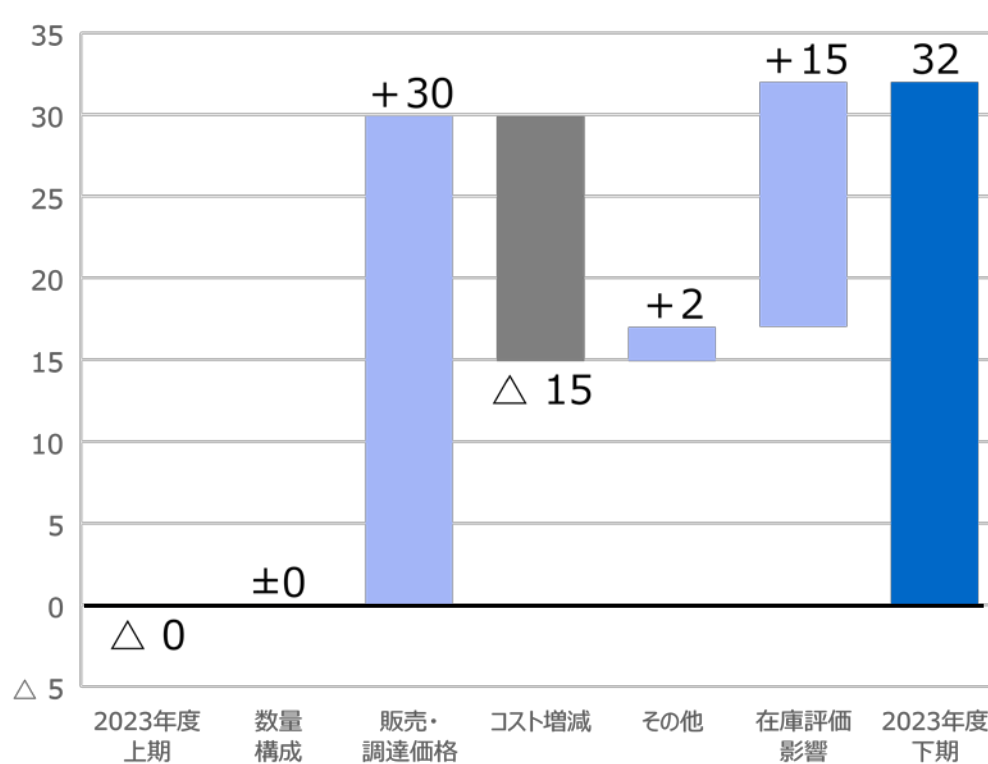
【建設機械 経常損益】

（単位：億円）

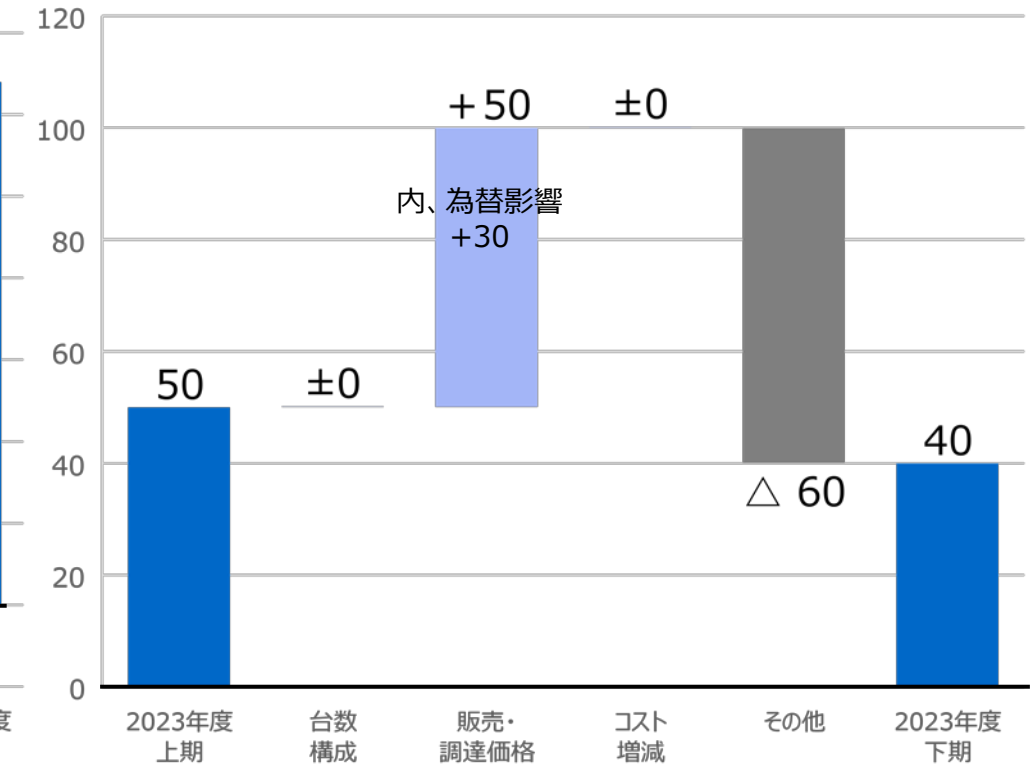
	2023年度実績		
	上期	下期	通期
建設機械	50	40	91



（億円）



（億円）

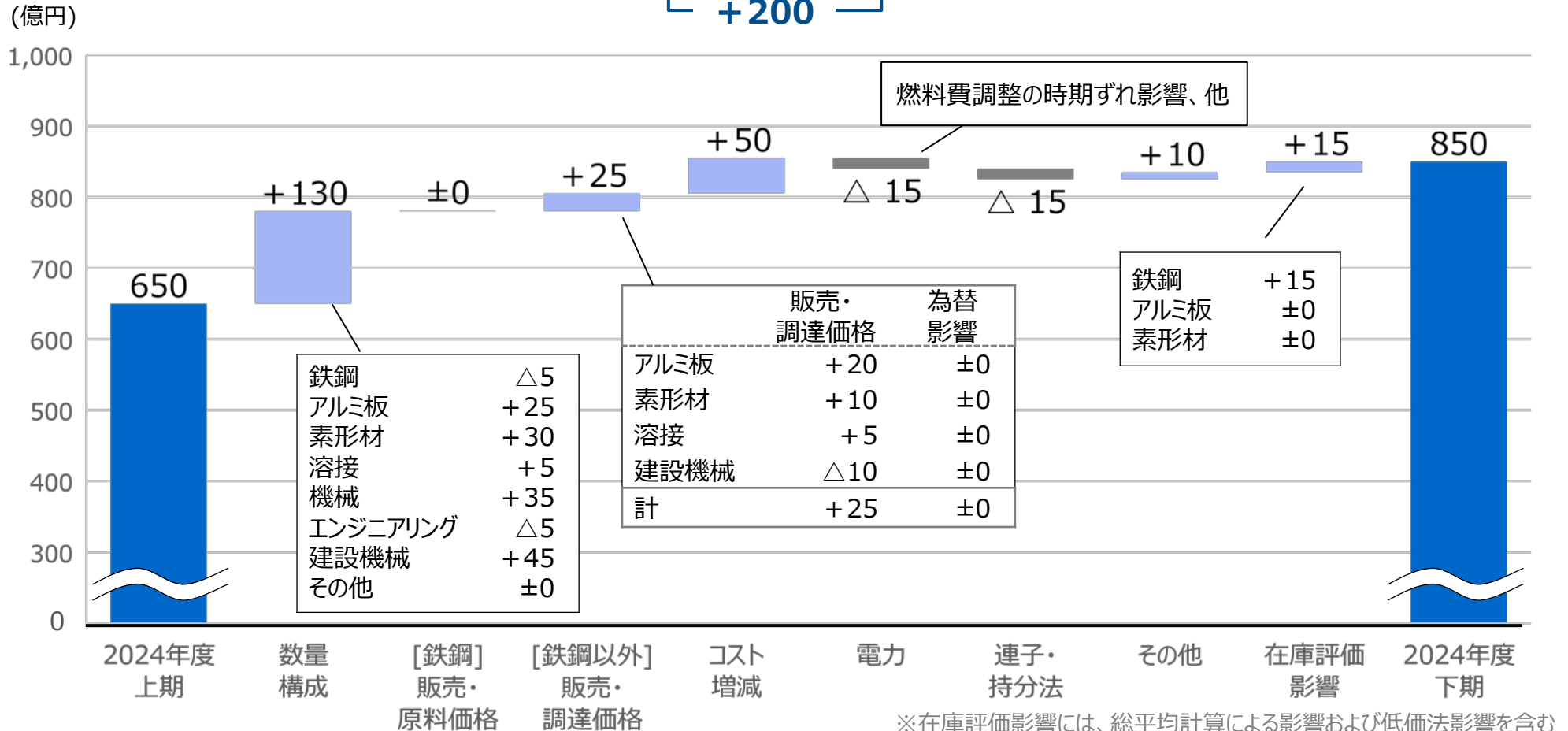


※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

【経常損益】

（単位：億円）

	2024年度見通し		
	上期	下期	通期
全社	650	850	1,500



【鉄鋼 経常損益】

（単位：億円）

	2024年度見通し		
	上期	下期	通期
鉄鋼	215	180	395

△35

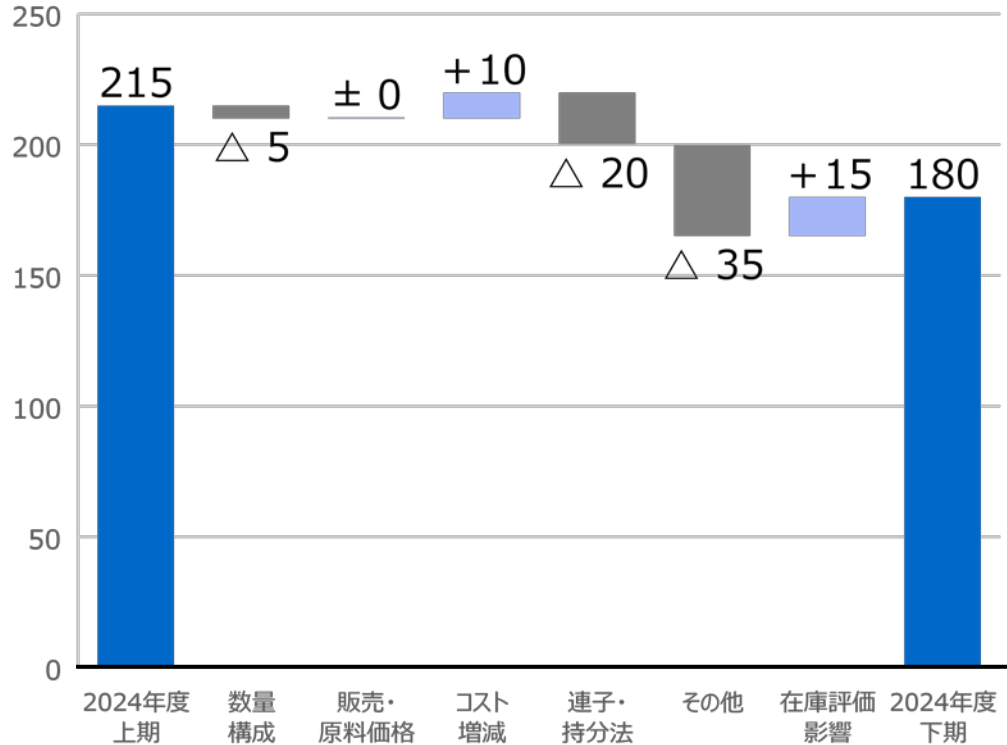
【アルミ板 経常損益】

（単位：億円）

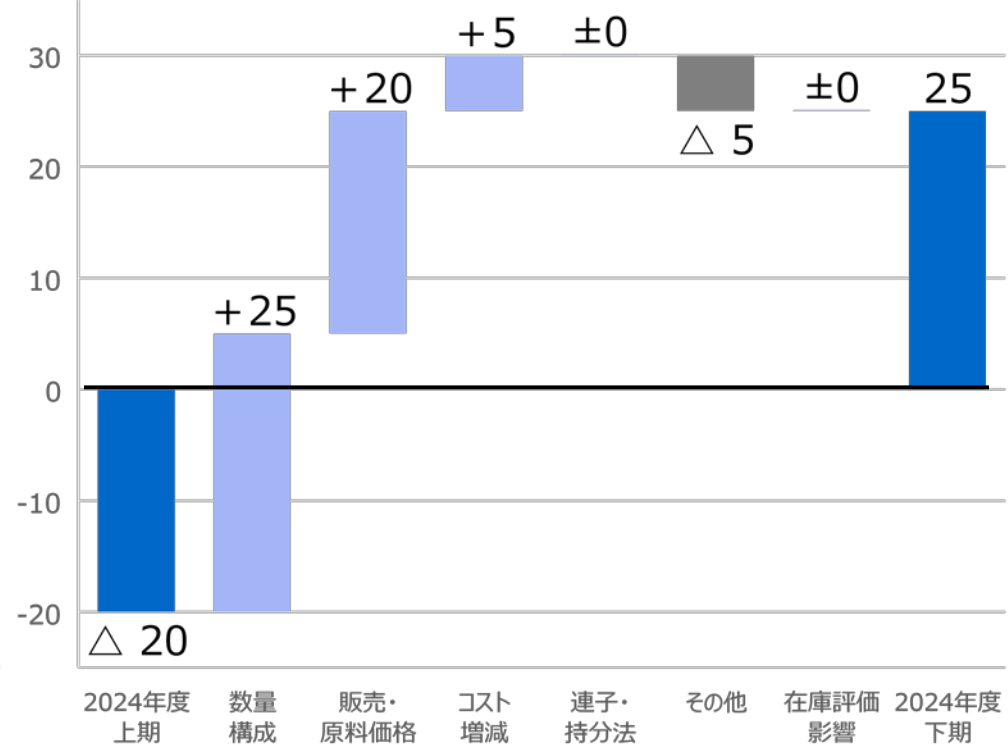
	2024年度見通し		
	上期	下期	通期
アルミ板	△20	25	5

+45

（億円）



（億円）



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

【素形材 経常損益】

(単位：億円)

	2024年度見通し		
	上期	下期	通期
素形材	△5	65	60

+70

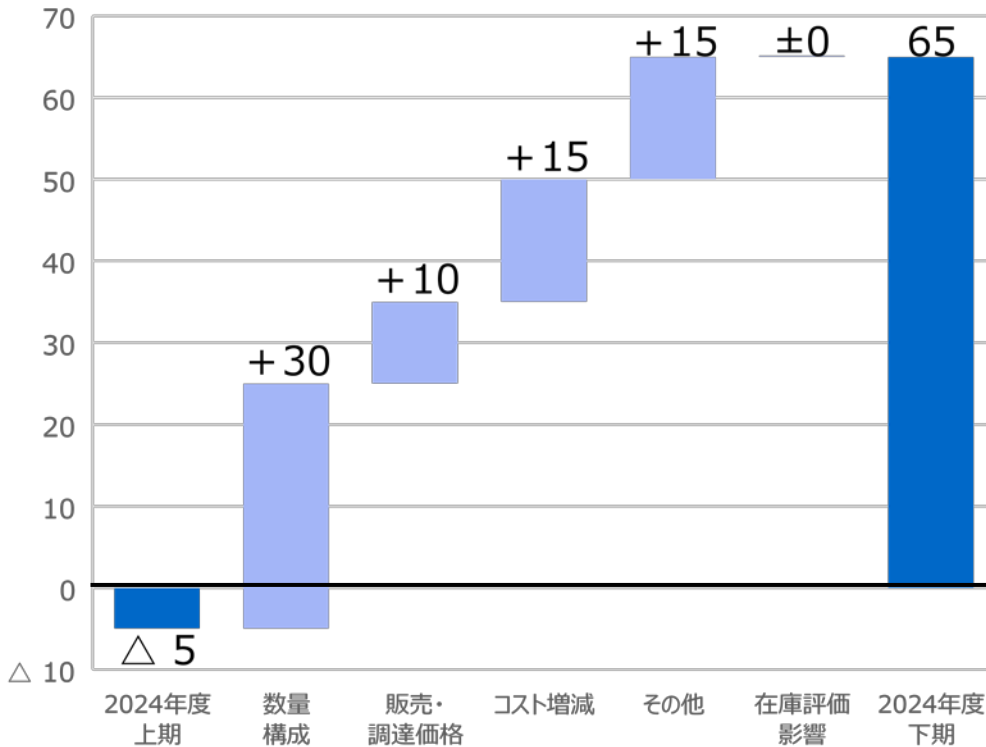
【建設機械 経常損益】

(単位：億円)

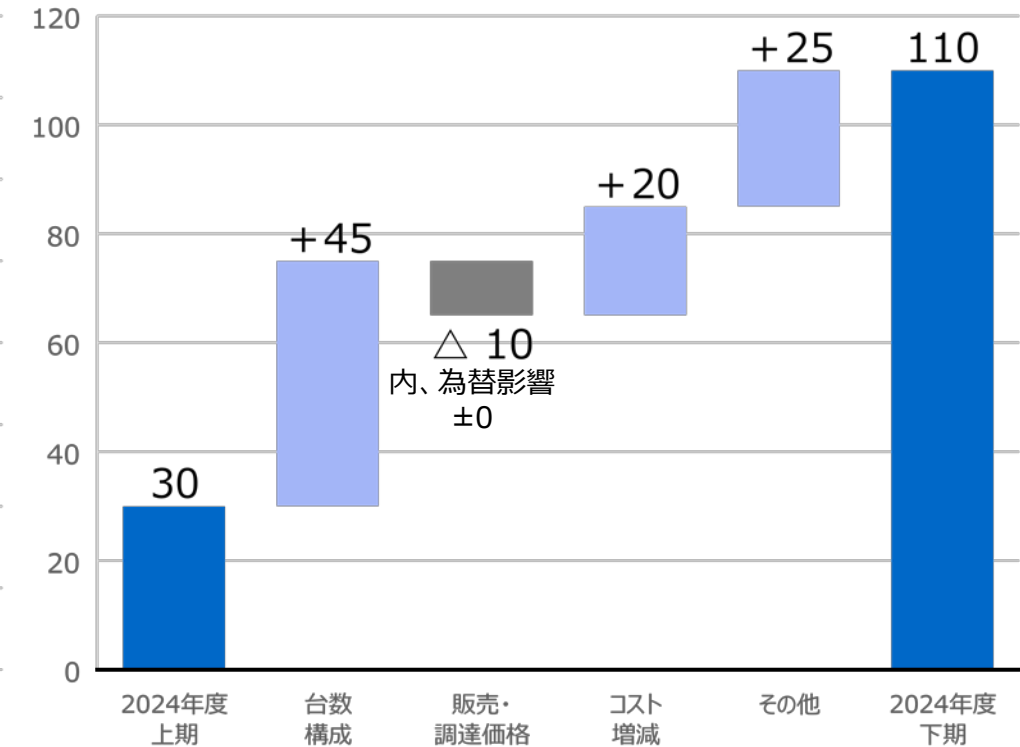
	2024年度見通し		
	上期	下期	通期
建設機械	30	110	140

+80

(億円)



(億円)



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

	2022年度実績			2023年度実績			2024年度見通し		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
粗鋼生産量 ※1 [万t]	315	304	619	309	288	597	300程度	300程度	600程度
鋼材 販売数量 ※2 [万t]	250	248	498	247	223	469	240程度	240程度	480程度
(国内)	(192)	(193)	(385)	(192)	(174)	(366)			
(輸出)	(58)	(55)	(113)	(54)	(49)	(104)			
鋼材 販売単価 [千円/t]	134.5	145.7	140.1	140.4	145.4	142.7			
鋼材 輸出比率	23.4%	21.8%	22.6%	20.9%	22.5%	21.7%			
アルミ板 販売数量 ※3 [千t]	170	167	337	161	154	314	170程度	180程度	350程度
(国内)	(119)	(113)	(232)	(116)	(107)	(223)			
(海外)	(51)	(55)	(105)	(45)	(47)	(91)			
アルミ押出 販売数量 ※3 [千t]	17	17	34	18	20	37	21程度	22程度	42程度
(国内)	(14)	(13)	(27)	(13)	(15)	(29)			
(海外)	(4)	(4)	(8)	(4)	(5)	(9)			
銅板 販売数量 ※2 [千t]	27	27	54	24	27	52	29程度	31程度	60程度
溶接材料 販売数量 ※3 [千t]	125	123	248	122	120	242	120程度	130程度	250程度
(国内)	(52)	(54)	(105)	(53)	(52)	(105)			
(海外)	(74)	(69)	(143)	(69)	(67)	(136)			
油圧ショベル 販売台数 ※4 [千台]	11.9	12.7	24.6	11.7	12.4	24.1	12.5程度	14.0程度	26.5程度
(国内)	(3.4)	(4.2)	(7.6)	(3.4)	(4.7)	(8.1)			
(海外)	(8.5)	(8.5)	(17.0)	(8.3)	(7.6)	(15.9)			
クローラークレーン 販売台数 ※3 [台]	145	144	289	132	183	315	180程度	190程度	370程度

※1：単体ベース、高砂製作所の電炉の生産数量を含む

※2：単体ベース

※3：連結ベース

※4：連結ベース、ミニショベルを含む

(単位：億円)

鉄鋼	2022年度実績			2023年度実績				
	上期	下期	通期	上期	3Q	4Q	下期	通期
鉄鉱石	50	△70	△20	25	△5	15	10	35
石炭	△30	5	△25	△20	25	0	25	5
キャリーオーバー	20	△65	△45	5	20	15	35	40
総平均	165	15	180	△70	30	30	60	△10
低価法	△15	△10	△25	5	0	△5	△5	0
在庫評価影響	150	5	155	△65	30	25	55	△10

アルミ板	2022年度実績			2023年度実績				
	上期	下期	通期	上期	3Q	4Q	下期	通期
総平均	55	10	65	5	10	0	10	15
低価法	0	△10	△10	5	0	0	0	5
在庫評価影響	55	0	55	10	10	0	10	20

素形材	2022年度実績			2023年度実績				
	上期	下期	通期	上期	3Q	4Q	下期	通期
総平均	25	5	30	10	10	15	25	35
低価法	△5	5	0	0	0	0	0	0
在庫評価影響	20	10	30	10	10	15	25	35

(単位：億円)

		2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 見通し
	営業キャッシュフロー	214	2,100	1,816	698	1,285	1,500
	投資キャッシュフロー	△1,334	△819	△1,250	△700	△373	△1,500
	プロジェクトファイナンスを除く フリーキャッシュフロー	△1,120	1,281	566	△2	911	0
プロジェクトファイナンスを含む フリーキャッシュフロー		△1,919	529	72	224	1,515	0
プロジェクトファイナンスを除く 現預金残高		1,349	3,018	2,432	1,454	1,887	1,500
プロジェクトファイナンスを含む 現預金残高		1,456	3,173	2,605	2,033	2,787	2,050

	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 見通し
設備投資：計上額	2,398	1,850	1,081	973	1,052	1,150
設備投資：支払額	2,453	1,732	1,564	989	948	1,250
減価償却費	1,053	1,008	1,051	1,125	1,190	1,250

	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 見通し
1株当たり当期純損益	△187.55円	64.05円	160.23円	183.80円	277.38円	303.83円
有利子負債	9,066億円	9,878億円	9,084億円	8,618億円	8,234億円	8,050億円
プロジェクトファイナンスを除く 有利子負債	7,844億円	7,857億円	6,551億円	5,905億円	5,805億円	5,900億円
D/Eレシオ ※1	※2 1.19倍	※3 1.11倍	※4 0.80倍	0.65倍	0.55倍	0.55倍程度
ROS ※5	△ 0.4%	0.9%	4.5%	4.3%	6.3%	5.6%
ROA ※6	△ 0.3%	0.6%	3.5%	3.8%	5.6%	5.1%
ROE ※7	△ 9.7%	3.4%	7.9%	8.4%	11.1%	10.8%
ROIC ※8	0.9%	1.1%	4.7%	4.9%	6.7%	6.5%程度

※1：D/Eレシオ＝有利子負債（IPPプロジェクトファイナンス含まない）／自己資本

※2：前倒し調達（621億円）含む。前倒し調達除く2019年度D/Eレシオ：1.10倍

※3：前倒し調達（1,862億円）含む。前倒し調達除く2020年度D/Eレシオ：0.84倍

※4：前倒し調達（1,011億円）含む。前倒し調達除く2021年度D/Eレシオ：0.68倍

※5：売上高経常利益率

※6：経常損益/総資産

※7：親会社株主に帰属する当期純損益/自己資本

※8：税引後事業利益/投下資本

	2022年度実績			2023年度実績			2024年度 見通し前提
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	
USドル (円/\$)	135.3	136.7	136.0	142.6	148.0	145.3	145.0
中国元 (円/元)	19.9	19.5	19.7	19.9	20.5	20.2	20.0
ユーロ (円/€)	139.1	144.1	141.6	154.8	160.6	157.7	155.0

【為替の感応度分析】

USドル1円 円安に伴う今後の業績影響

鉄鋼 : Δ 5億円程度 (ドルバランスの影響 Δ 15億円、在庫評価影響・販売価格への転嫁等 + 10億円)

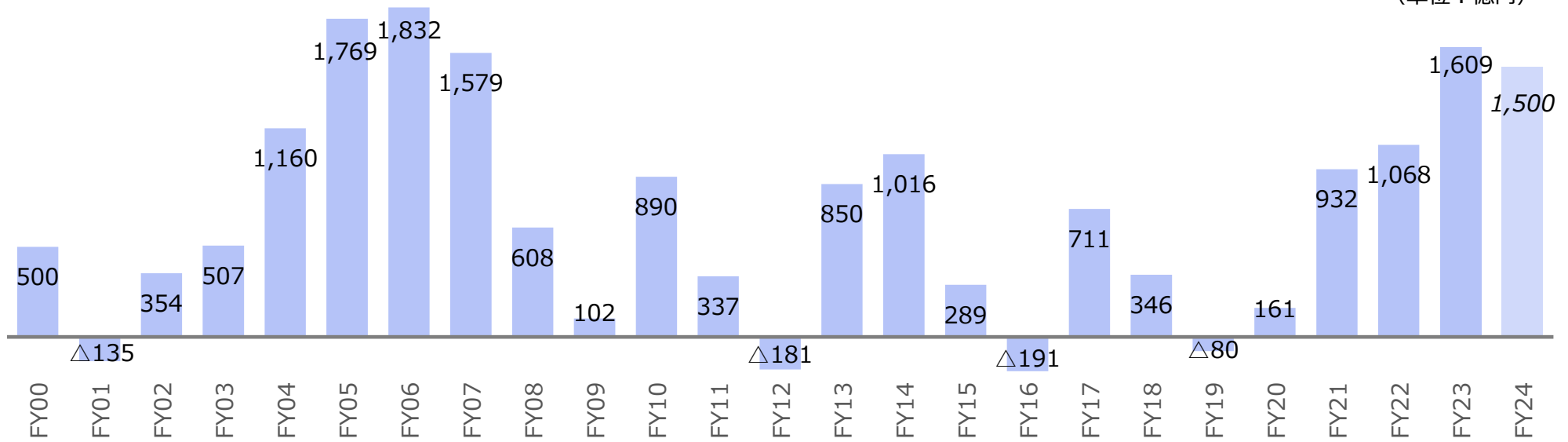
建設機械 : + 3億円程度 (ドルバランスの影響 + 3億円)

ユーロ1円 円安に伴う今後の業績影響

建設機械 : + 3億円程度

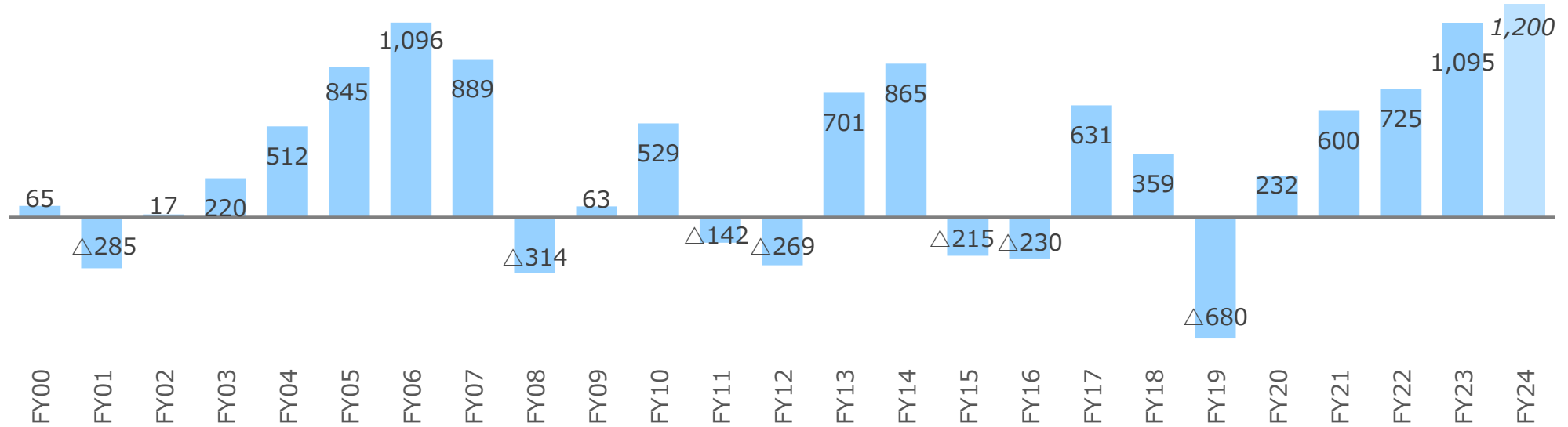
【経常損益】

(単位：億円)



【親会社株主に帰属する当期純損益】

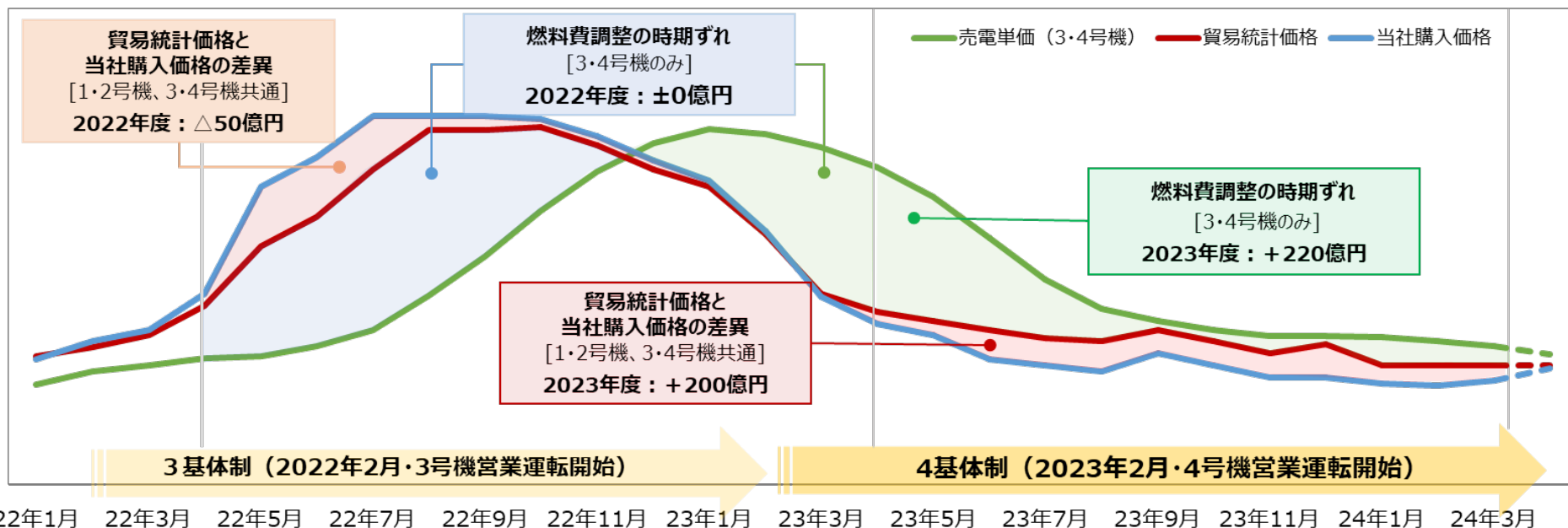
(単位：億円)



- 当社の石炭火力発電会社が受領する燃料費相当の電力量料金は、契約時の設定燃料費に、石炭の輸入貿易統計価格（全国平均値）の契約時からの変動代を調整して計算される。

期間損益の主な変動要素	2022年度	2023年度		対前期	対前回
	実績①	前回②	実績③	③-①	③-②
燃料費調整の時期ずれ [3・4号機のみ] ・ 石炭価格の上下に伴い必ず生じる。 （3～5ヶ月前の貿易統計値を参照） ・ 長期で見れば増益・減益が相殺される。	±0億円 上期 △100億円 下期 +100億円	+220億円 上期 +160億円 下期 +60億円	+220億円 上期 +160億円 下期 +60億円	+220億円 上期 +260億円 下期 △40億円	-1億円 上期 -1億円 下期 -1億円
売電価格に関する一過性の損益影響 [1・2号機、3・4号機共通] （貿易統計価格と当社購入価格の差異） ・ 基本的には乖離が生じない仕組みでの購入を方針とするものの、外部要因にてイレギュラー的に発生する可能性あり。	△50億円 上期 △50億円 下期 -1億円	+140億円 上期 +80億円 下期 +60億円	+200億円 上期 +80億円 下期 +120億円	+250億円 上期 +130億円 下期 +120億円	+60億円 上期 -1億円 下期 +60億円

「石炭貿易統計価格と当社購入価格の推移（イメージ）」



資本市場との対話

当社は持続的な成長と中長期的な企業価値向上に向けて、資本市場との対話を積極的に行っており、その内容を、ホームページに開示しています。

[capital_markets_22.pdf \(kobelco.co.jp\)](https://www.kobelco.co.jp/capital_markets_22.pdf)



社会からの評価（主なもの）

◆ FTSE4Good Index Series

(2021年6月～)



FTSE4Good

◆ FTSE Blossom Japan Sector Relative Index

(2022年3月～)



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

◆ FTSE Blossom Japan Index

(2021年6月～)



FTSE Blossom
Japan

◆ CDP

(2020年12月～)



「気候変動」で「A-」の評価を
4年連続で獲得

◆ ディスクロージャー優良企業

ディスクロージャー
2023年度 優良企業



SAAJ 公益社団法人
日本証券アナリスト協会
The Securities Analysts Association of Japan

◆ MSCI JAPAN ESG SELECT LEADERS INDEX ※

(2022年6月～)

2023 CONSTITUENT MSCI JAPAN
ESG SELECT LEADERS INDEX

◆ MSCI JAPAN EMPOWERING WOMEN INDEX (WIN) ※

(2022年12月～)

2023 CONSTITUENT MSCI JAPAN
EMPOWERING WOMEN INDEX (WIN)

※THE INCLUSION OF KOBE STEEL, LTD. IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF KOBE STEEL, LTD. BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI.

MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

広告宣伝活動

阪神甲子園球場マウンド広告への協賛

当社は、阪神甲子園球場のマウンド広告に協賛しております。同球場のマウンドに企業広告が掲出されるのは、開場100周年を迎える2024年からの初めての取組みとなります。

プレスリリース（2024年3月4日）：

https://www.kobelco.co.jp/releases/1214484_15541.html

実際の放映映像



©阪神タイガース

社会貢献活動

「公民連携による万博子ども招待プロジェクト」への協賛

当社は、兵庫県が取り組む『公民連携による万博子ども招待プロジェクト』の考えに賛同し、協賛しております。

プレスリリース（2024年4月11日）：

https://www.kobelco.co.jp/releases/1214560_15541.html

「第11回KOBELCO森の童話大賞」絵本の贈呈

当社は、「第11回KOBELCO森の童話大賞」の金賞作品を絵本化し、後援自治体の学校、公立図書館等に約2,000セットを寄贈いたしました。

プレスリリース（2024年3月25日）：

https://www.kobelco.co.jp/releases/1214532_15541.html



完成した絵本

KOBELCOが 実現したい未来	「KOBELCOの使命・存在意義」の実行を通じて実現したい社会・未来
	安全・安心で豊かな暮らしの中で、 今と未来の人々が夢や希望を叶えられる世界。
KOBELCOの 使命・存在意義	KOBELCOグループの社会的存在意義であり、果たすべき使命
	個性と技術を活かし合い、 社会課題の解決に挑みつつける。
KOBELCOの 3つの約束	KOBELCOグループの社会に対する約束事であり、グループで共有する価値観
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 信頼される技術、製品、サービスを提供します 2. 社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊びます 3. たゆまぬ変革により、新たな価値を創造します
KOBELCOの 6つの誓い	「KOBELCOの3つの約束」を果たすため、品質憲章とともに全社員が実践する行動規範
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高い倫理観とプロ意識の徹底 2. 優れた製品・サービスの提供による社会への貢献 3. 働きやすい職場環境の実現 4. 地域社会との共生 5. 環境への貢献 6. ステークホルダーの尊重

品質憲章

将来見通しに関する注意事項

- ◆ 本日のプレゼンテーションの中には、弊社の予想、確信、期待、意向および戦略など、将来の予測に関する内容が含まれています。これらは、弊社が現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化による変動可能性など様々な要因によって、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なってしまふ可能性があります。弊社は、将来予測に関するいかなる内容についても、改訂する義務を負うものではありません。

- ◆ 上記の不確実性および変動の要因としては、以下に挙げる内容を含んでいます。また、要因はこれらに限定されるわけではありません。
 - 主要市場における経済情勢および需要・市況の変動
 - 主要市場における政治情勢や貿易規制等各種規制
 - 為替相場の変動
 - 原材料のアベイラビリティや市況
 - 競争企業の製品・サービス、価格政策、アライアンス、M&Aなどの事業展開
 - 弊社の提携関係に関する提携パートナーの戦略変化